令和 8 年 9 月 25 日

第 3 次宇和島市総合計画策定のための

市民アンケート調査

結 果 概 要 資 料

項目	内容
本資料の位置づけ	「市民アンケート調査結果報告書」（Ver1.0）の要点を抜粋・整理したもの
作成	株式会社地域創生 Co デザイン研究所
報告書本編	別紙「20260925_市民アンケート結果報告書」を参照

本資料の構成

第 1 部　調査の概要と回答者の属性

第 2 部　定住意向・愛着と市民の声

第 3 部　Well-Being から見た宇和島市の特徴

第 4 部　計画検討に向けた論点とまとめ

本資料の使い方

各節の末尾に、報告書の該当箇所を「▶ 詳細は報告書「〇.〇 〇〇〇（P.〇）」参照」の形式で記載している。会議中に詳細データの確認が必要となった場合は、当該箇所を参照されたい。

※ページ番号は報告書のフッターに表示されるページ数（表紙＝P.1）を指す。

第 1 部　調査の概要と回答者の属性

1. 調査の背景・目的と実施概要

1.1　調査の背景・目的

第 3 次宇和島市総合計画の策定に当たり、市民の暮らしの実感やまちへの想いを把握し、計画内容を検討するための基礎資料とすることを目的として、市民アンケート調査を実施した。

本調査では、宇和島市への愛着、定住意向、まちづくりへの関与意向、行政サービスの見直しに対する受容度に加え、地域幸福度（Well-Being）指標についても把握した。また、回答者全体の傾向だけでなく、性別・年代、居住地区、居住年数、世帯構成等による違いを整理し、計画の検討につながる論点を分析した。

1.2　調査の実施概要

調査対象	18 歳以上の市民 3,000 人（無作為抽出）	調査期間	2026 年 7 月 23 日～8 月 20 日
送付方法	アンケート案内文の郵送	回答方法	郵送回答またはインターネット回答
設問数	72 問（地域幸福度（Well-Being）調査の規定設問を含む）	回答形式	単一選択・複数選択・自由記述
回答数	940 件（郵送 601 件、Web339 件）	回収率	31.3%

※インターネット回答は、郵送した案内文に印字された二次元コードから Web サイト上で回答する方式とした。

▶ 詳細は報告書「調査対象・実施概要（P.3）／設問一覧①～⑨（P.4～P.12）」参照

1.3　本概要資料の読み方

本資料は、アンケートの全設問を順番に再掲するものではなく、総合計画の検討に当たって共有すべき回答結果をテーマ別に整理したものである。設問ごとの詳細な回答割合、クロス集計及び分析過程については、別途作成した「市民アンケート調査結果報告書」を参照されたい。

結果を読む際の留意点

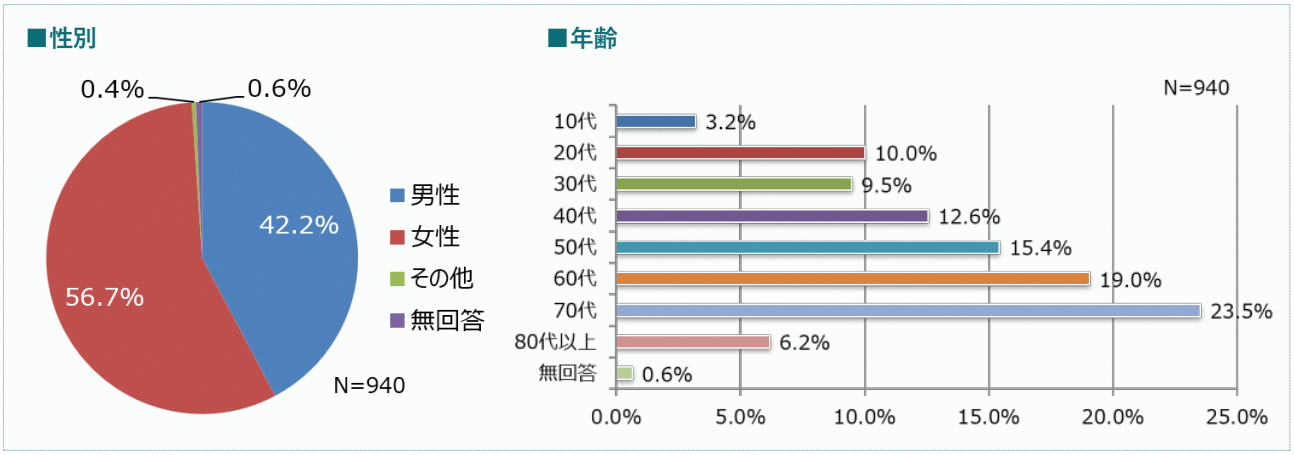
アンケート結果は回答者の構成を踏まえて解釈する必要がある。特に、性年代別・地区別の集計には回答者数が少ない区分も含まれるため、個別の数値のみで評価を断定せず、複数設問に共通して表れる傾向を中心に確認する。

2. 回答者の属性

2.1　性別・年代

回答者 940 人の性別は、男性が 42.2%、女性が 56.7%であり、女性の割合が男性を 14.5 ポイント上回っている。年代別では、70 代が 23.5%で最も多く、次いで 60 代が 19.0%、50 代が 15.4%となっている。60 代以上を合わせると 48.7%であり、回答者の約半数を占める。一方、10 代は 3.2%、20 代は 10.0%であり、若年層の構成

割合は相対的に低い。

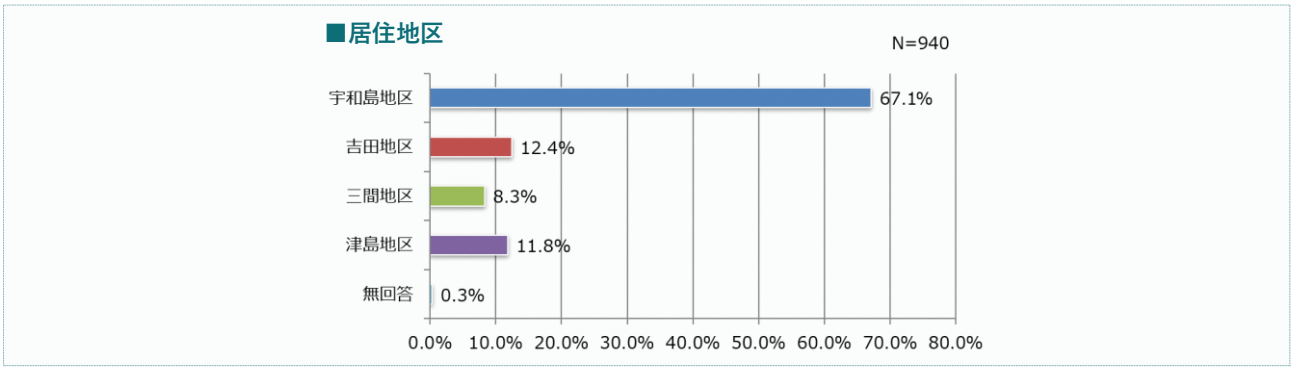


なお、標本分布を市の地域・年齢別人口（2026 年 9 月 1 日時点）と照合したところ、年齢区分の取り方に若干の差異はあるものの、市の実態に一定合致した標本分布となっている。

▶ 詳細は報告書「1.1 A1 性別（P.16）／1.2 A2 年齢（P.17）／標本分布（P.13）／標本分布（標本割合－参考）（P.14）」参照

2.2　居住地区

回答者の居住地区は、宇和島地区が 67.1％で最も多く、次いで吉田地区が 12.4%、津島地区が 11.8%、三間地区が 8.3%となっている。地区別の回答者構成は、地域別人口に概ね沿っている。



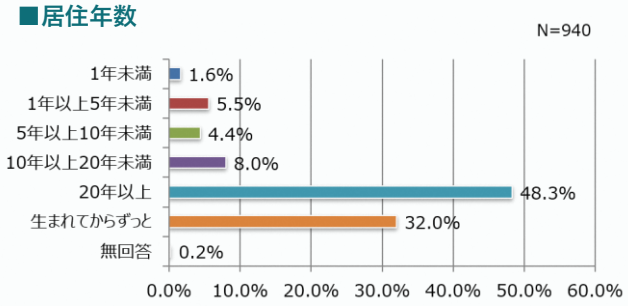
▶ 詳細は報告書「1.3 A4 居住地区（P.18）／前提 1 地区×年齢（P.62）」参照

2.3　居住年数・世帯構成

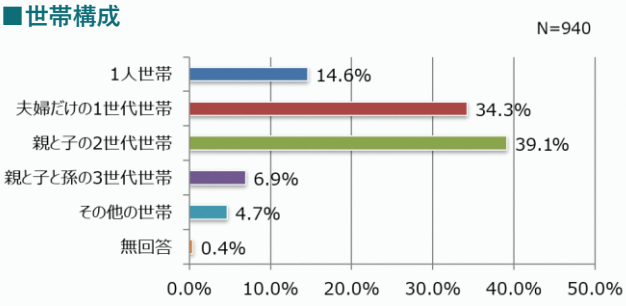
居住年数は、「20 年以上」が 48.3%で最も多く、次いで「生まれてからずっと」が 32.0%、「10 年以上 20 年未満」が 8.0%となっている。「生まれてからずっと」を含め、10 年以上宇和島市に住んでいる回答者は 88.3%であり、長期居住者が回答者の中心となっている。

世帯構成は、「親と子の 2 世代世帯」が 39.1％で最も多く、次いで「夫婦だけの 1 世代世帯」が 34.3%、「1 人世帯」が 14.6%となっている。同居している子どもについては、「いない」が 67.6%、「18 歳未満の子がいる」が 16.5%、「18 歳以上の子がいる」が 13.0%であった。

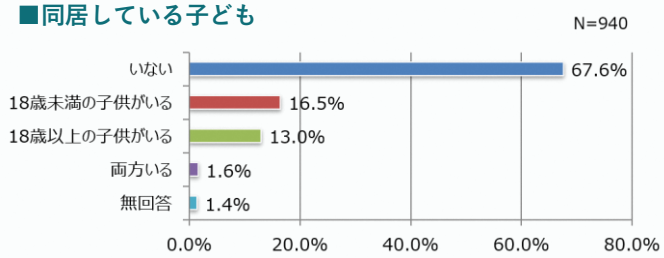
■居住年数



■世帯構成



■同居している子ども



▶ 詳細は報告書「1.4 A5 居住年数（P.19）／1.5 A6 世帯構成（P.20）／1.6 A7 同居している子ども（P.21）」参照

属性別結果を見る際のポイント

回答者には 60 代以上及び長期居住者が比較的多い。また、地区別では宇和島地区の回答者が全体の約 3 分の 2 を占める一方、三間地区等では回答者数が少ない。後続の属性別分析では、こうした標本構成を前提として結果を読み取る必要がある。

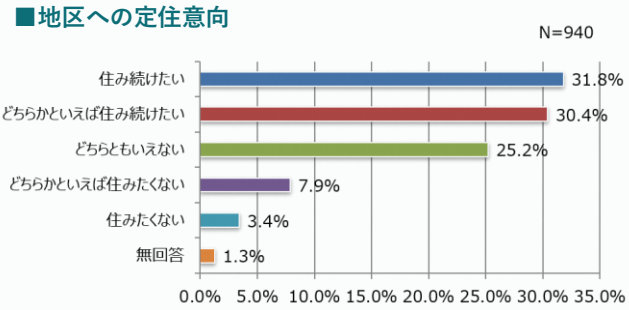
第 2 部　定住意向・愛着と市民の声

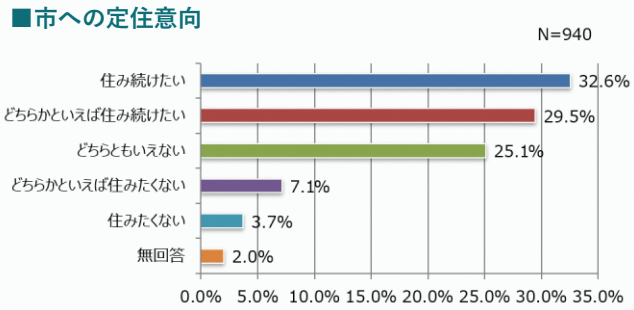
3. 宇和島市への愛着・定住意向・参画意欲

3.1　定住意向

今お住まいの地区への定住意向については、「住み続けたい」が 31.8%、「どちらかといえば住み続けたい」が 30.4%であり、両者を合わせた肯定的な回答は 62.2%となっている。一方、「どちらかといえば住みたくない」は 7.9%、「住みたくない」は 3.4%であり、合計 11.3%であった。「どちらともいえない」は 25.2%である。

宇和島市全体への定住意向についても、肯定的な回答は 62.1%、否定的な回答は 10.8%であり、地区単位で尋ねた結果とほぼ同水準となっている。地区への定住意向と市への定住意向は、概ね傾向が一致している。

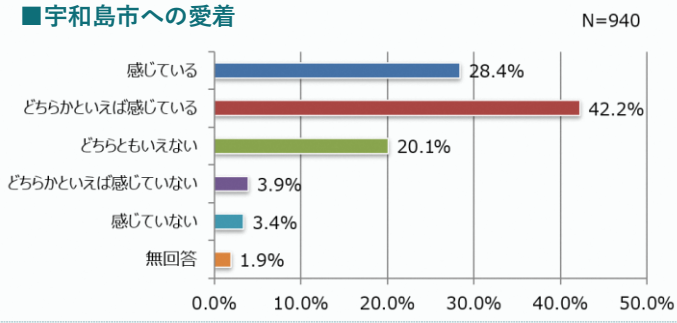




▶ 詳細は報告書「6.1 F1 地区への定住意向（P.53）／6.2 F1-2 市への定住意向（P.54）／前提 4 地区定住意向×市定住意向（P.65）」参照

3.2　宇和島市への愛着

宇和島市への愛着については、「感じている」が 28.4%、「どちらかといえば感じている」が 42.2%であり、両者を合わせた肯定的な回答は 70.6%となっている。一方、「どちらかといえば感じていない」は 3.9%、「感じていない」は 3.4%であり、合計 7.3%であった。宇和島市に対して愛着を持つ回答者が多数を占めている。



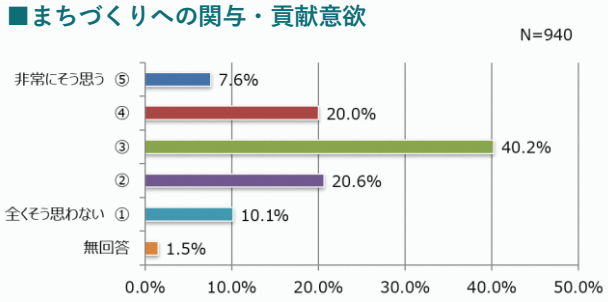
▶ 詳細は報告書「6.5 F3 宇和島市への愛着（P.57）／前提 5 宇和島市への愛着×定住意向（P.66）」参照

3.3　まちづくりへの関与・貢献意欲

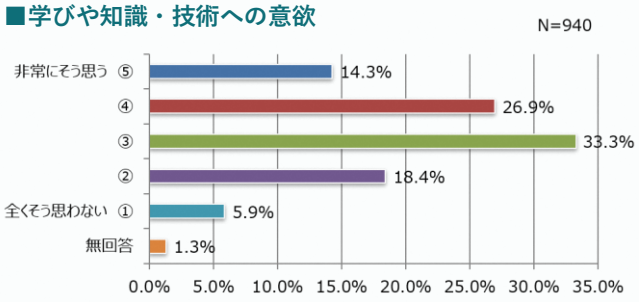
まちづくりへの関与・貢献意欲については、中間の「③」が 40.2%で最も多く、意欲の高い「⑤」「④」を合わせた肯定側は 27.6%、意欲の低い「①」「②」を合わせた否定側は 30.7%となっている。愛着を感じる回答者が 70.6%に上る一方で、まちづくりへの参画意欲には必ずしも結び付いていない。

なお、新しいことを学んだり、知識や技術を身につけたいという学習意欲については、肯定側が 41.2%、否定側が 24.3%であり、肯定側が 16.9 ポイント上回っている。

■まちづくりへの関与・貢献意欲



■学びや知識・技術への意欲



▶ 詳細は報告書「6.6 F4 まちづくりへの関与・貢献意欲（P.58）／6.7 F5 新しい学びや知識・技術への意欲（P.59）」参照

結果を見る際のポイント

愛着は 70.6%が肯定しており、宇和島市に対する市民の思いは強い。一方、定住意向の肯定は 62.2%、まちづくりへの参画意欲の肯定は 27.6%にとどまる。

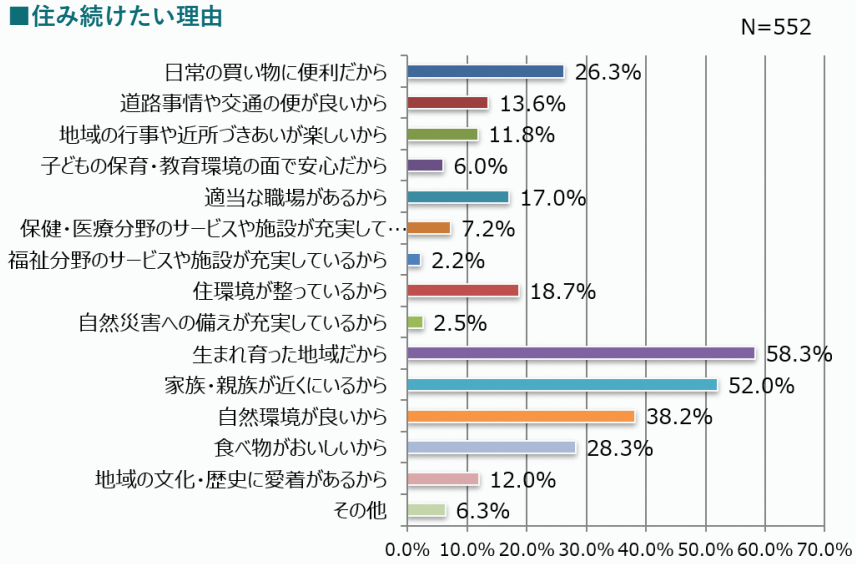
「愛着を持つこと」と「住み続けること」、さらに「まちづくりに関わること」の間には段階的な開きがある。後続では、この開きがどこから生じているかを、定住・転出の理由から確認する。

4. 定住・転出意向の背景

4.1　住み続けたい理由

地区・市のいずれにも「住み続けたい」または「どちらかといえば住み続けたい」と回答した 552 人に、その理由を尋ねたところ（複数回答）、「生まれ育った地域だから」が 58.3%で最も多く、次いで「家族・親族が近くにいるから」が 52.0%、「自然環境が良いから」が 38.2%、「食べ物がおいしいから」が 28.3%となっている。定住の理由は、出自と家族に集中している。

■住み続けたい理由

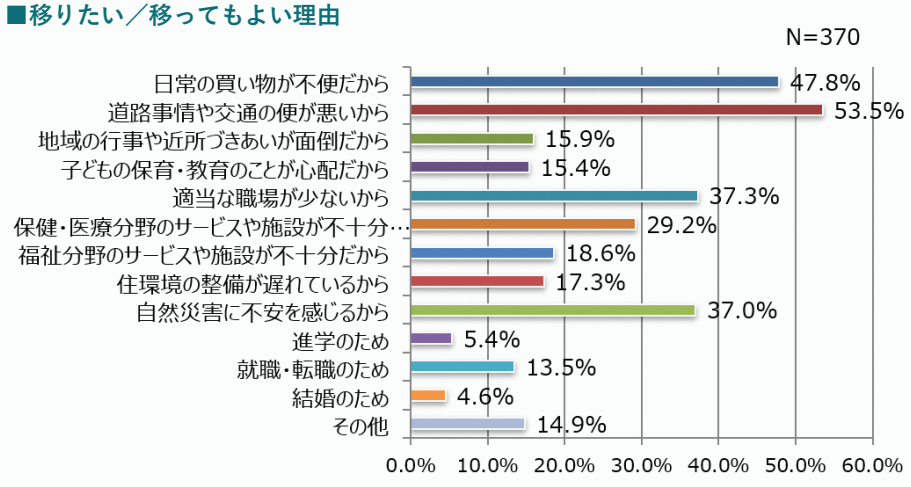


▶ 詳細は報告書「6.4 F2-b 住み続けたい理由（P.56）」参照

4.2　移りたい（移ってもよい）理由

地区・市のいずれかについて「どちらともいえない」「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」と回答した 370 人に、その理由を尋ねたところ（複数回答）、「道路事情や交通の便が悪いから」が 53.5%で最も多く、次いで「日常の買い物が不便だから」が 47.8%、「適当な職場が少ないから」が 37.3%、「自然災害に不安を感じるから」が 37.0%となっている。上位 2 項目はいずれも生活の利便性に関する理由であり、半数前後の回答者が挙げている。

■移りたい／移ってもよい理由



▶ 詳細は報告書「6.3 F2-a 移りたい／移ってもよい理由（P.55）」参照

4.3　属性による定住意向の違い

年代別に見ると、20 代では肯定的な回答が 5 割を下回り、他の年齢層と比較して定住意向がやや低い。一方、70 代以上は「住み続けたい」の回答割合が高く、定住意向が高い傾向が見られる。

居住年数別に見ると、「どちらかといえば住みたくない」の選択は居住 1 年以上 5 年未満の層で 19.2%と最も高く、一歩踏み込んだ「住みたくない」の選択は居住 5 年以上 10 年未満の層で 9.8%と最も高い。転出意向が芽生え始める居住 1 年以上 5 年未満のタイミングが、定住施策の焦点となることが考えられる。

子どもの有無別に見ると、18 歳以上の子がいる層の定住意向が 81.0%に達する一方、18 歳未満の子がいる層は 55.5%と全層で最も低い。子育て期は定住施策を検討するうえでの一つの着目点となり得る。

■年齢×地区定住意向

	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	住みたくない	総計
10代	20.00% 6	36.67% 11	23.33% 7	13.33% 4	6.67% 2	100.00% 30
20代	21.51% 20	27.96% 26	26.88% 25	18.28% 17	5.38% 5	100.00% 93
30代	34.83% 31	24.72% 22	26.97% 24	7.87% 7	5.62% 5	100.00% 89
40代	28.81% 34	27.97% 33	25.42% 30	14.41% 17	3.39% 4	100.00% 118
50代	24.14% 35	32.41% 47	33.10% 48	6.90% 10	3.45% 5	100.00% 145
60代	28.09% 50	33.15% 59	26.97% 48	7.30% 13	4.49% 8	100.00% 178
70代	43.93% 94	32.71% 70	19.63% 42	2.34% 5	1.40% 3	100.00% 214
80代以上	50.00% 28	32.14% 18	16.07% 9	1.79% 1		100.00% 56

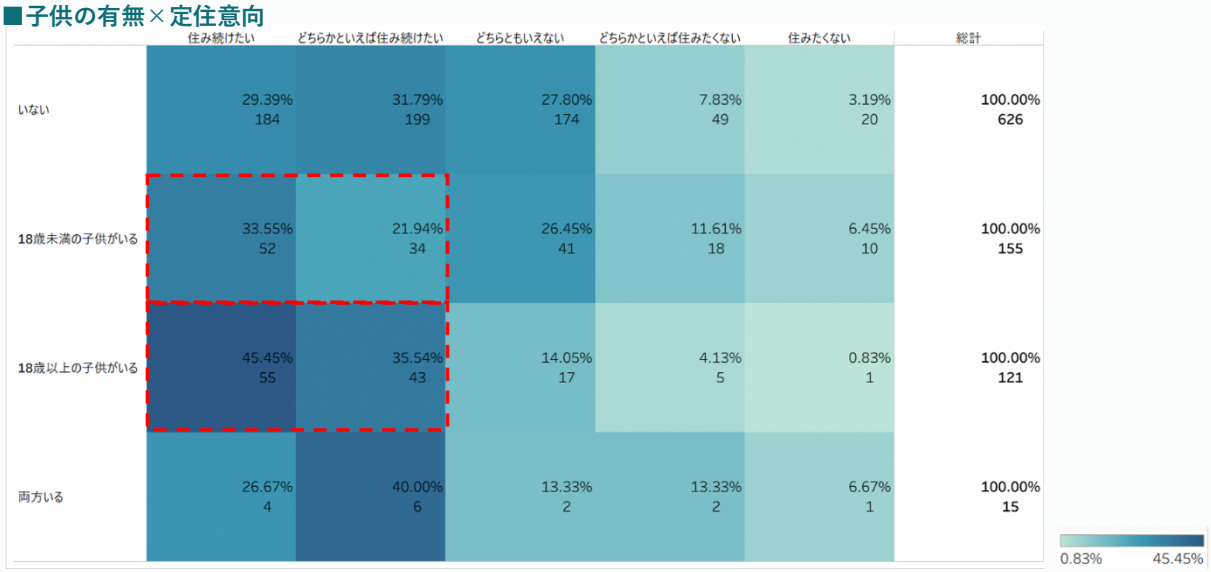
1.40%　50.00%

■居住年数×地区定住意向

	住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	住みたくない	総計
1年未満	33.33% 5	20.00% 3	33.33% 5	6.67% 1	6.67% 1	100.00% 15
1年以上5年未満	17.31% 9	26.92% 14	30.77% 16	19.23% 10	5.77% 3	100.00% 52
5年以上10年未満	19.51% 8	29.27% 12	29.27% 12	12.20% 5	9.76% 4	100.00% 41
10年以上20年未満	24.00% 18	26.67% 20	25.33% 19	14.67% 11	9.33% 7	100.00% 75
20年以上	32.96% 147	31.84% 142	25.56% 114	6.95% 31	2.69% 12	100.00% 446
生まれてからずっと	37.58% 112	31.54% 94	23.83% 71	5.37% 16	1.68% 5	100.00% 298

1.68%　37.58%

■子供の有無×定住意向



▶ 詳細は報告書「7.1.1 年齢×地区定住意向（P.67）／7.3 居住年数×地区定住意向（P.75）／7.5 子供の有無×定住意向（P.77）／7.4 世帯構成×地区定住意向（P.76）」参照

結果を見る際のポイント

定住の理由は「生まれ育った地域」「家族・親族が近くにいる」という出自と家族に集中する一方、転出・転居の検討理由は交通・買い物・職場・災害といった生活の利便性に集中している。利便性は、定住を支える要因としてよりも、転出側の要因としてより強く表れている。

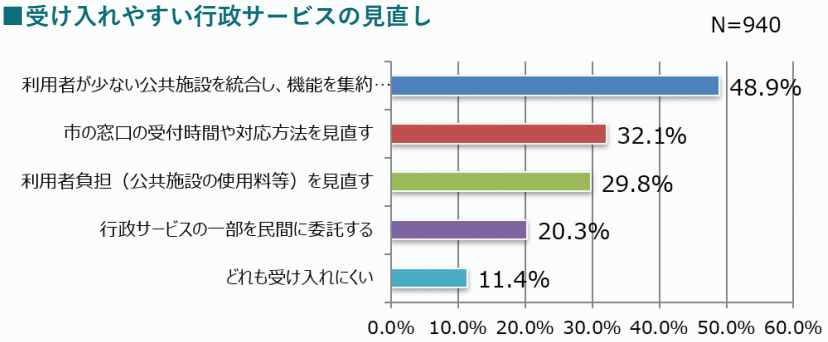
また、転出意向が高まりやすいのは 20 代、居住 1～5 年未満層、18 歳未満の子がいる層である。いずれも、地域との関係がまだ十分に築かれていない、あるいは日常の負担が大きい層と重なる。

5. 行政サービスの見直しに対する受容度

今後、人口減少が進む中で行政サービスのあり方を見直す必要が生じた場合に、将来的に見て受け入れやすいと思うものを尋ねたところ（複数回答）、「利用者が少ない公共施設を統合し、機能を集約する」を 48.9%が選択し、約半数を占めた。次いで「市の窓口の受付時間や対応方法を見直す」が 32.1%、「利用者負担（公共施設の使用料等）を見直す」が 29.8%、「行政サービスの一部を民間に委託する」が 20.3%となっている。

一方、「どれも受け入れにくい」は 11.4%にとどまり、大多数が何らかの見直しを受け入れる意向を示している。

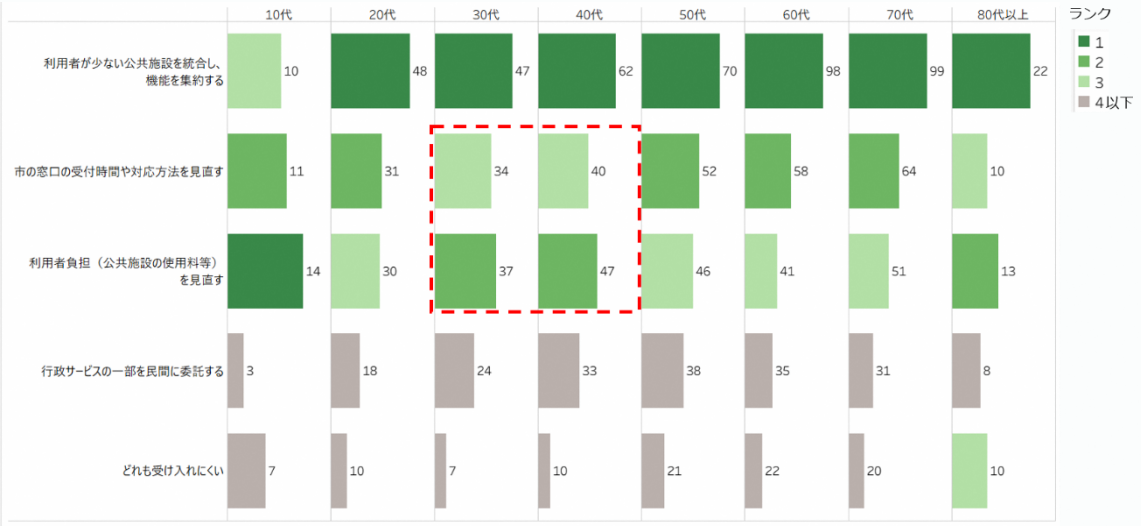
■受け入れやすい行政サービスの見直し



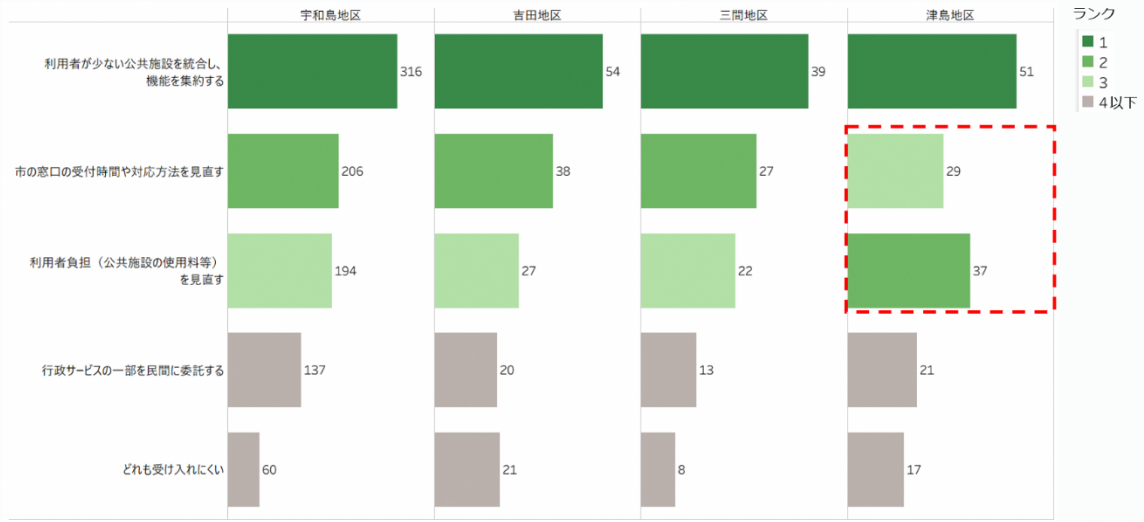
▶ 詳細は報告書「6.8 F6 受け入れやすい行政サービスの見直し（P.60）」参照

なお、地区別に見ると受け入れやすい見直しの順位に違いがあり、津島地区では「利用者負担の見直し」が「窓口の見直し」を上回っている。また、30・40 代でも同様の順位の逆転が見られる。

■年齢×受け入れやすい行政サービスの見直し



■地区×受け入れやすい行政サービスの見直し



▶ 詳細は報告書「7.1.4 年齢×受け入れやすい行政サービスの見直し（P.70）／7.2.4 地区×受け入れやすい行政サービスの見直し（P.74）」参照

結果を見る際のポイント

回答者の約半数が 60 代以上という構成でありながら、公共施設の統合・集約が最も受け入れやすい見直しとして選ばれ、「どれも受け入れにくい」は 1 割程度にとどまった。市民は、人口減少下での行政サービスの見直しについて、一定の理解を示していると読み取れる。

一方で、受け入れやすい見直しの順位には地区・年代による違いがある。施設の再編を具体的に検討する際には、こうした意向の違いにも留意が必要である。

6. 自由記述から見た市民の声

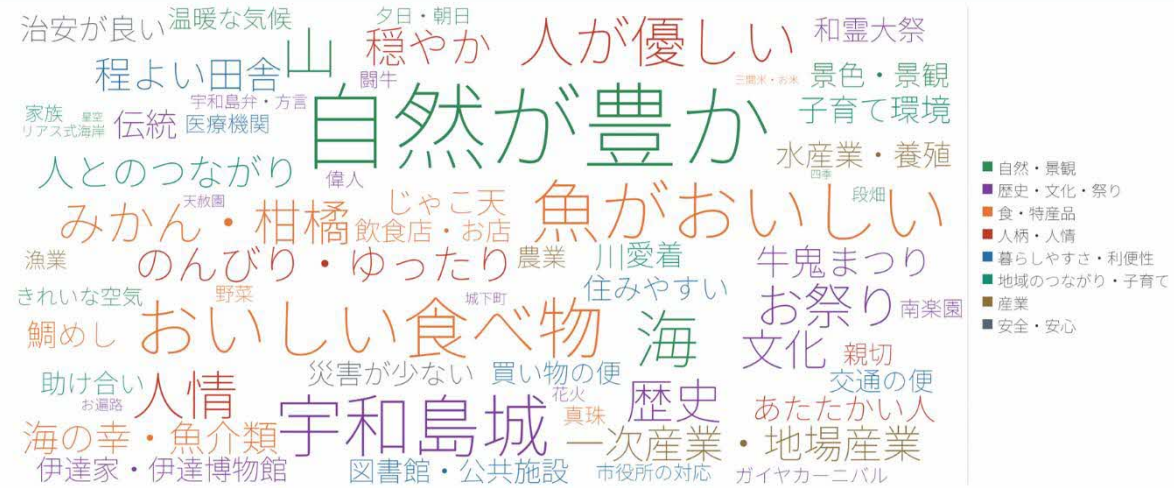
自由記述設問（5 問）について、記述内容からキーワードを抽出し、テーマまたは Well-Being 指標の因子ごとに分類した。抽出・分類を経て可視化しているため、あくまで傾向把握を目的とするものである。

▶ 詳細は報告書「前提 自由記述の可視化方法（P.96）」参照

6.1　好きなところ・誇りに思うところ（G1）

豊かな自然や食、宇和島城をはじめとする歴史・文化に加え、「人が優しい」「人とのつながり」といった人の魅力も、宇和島市の魅力として認識されていることがうかがえる。

■好きなところ・誇りに思うところ

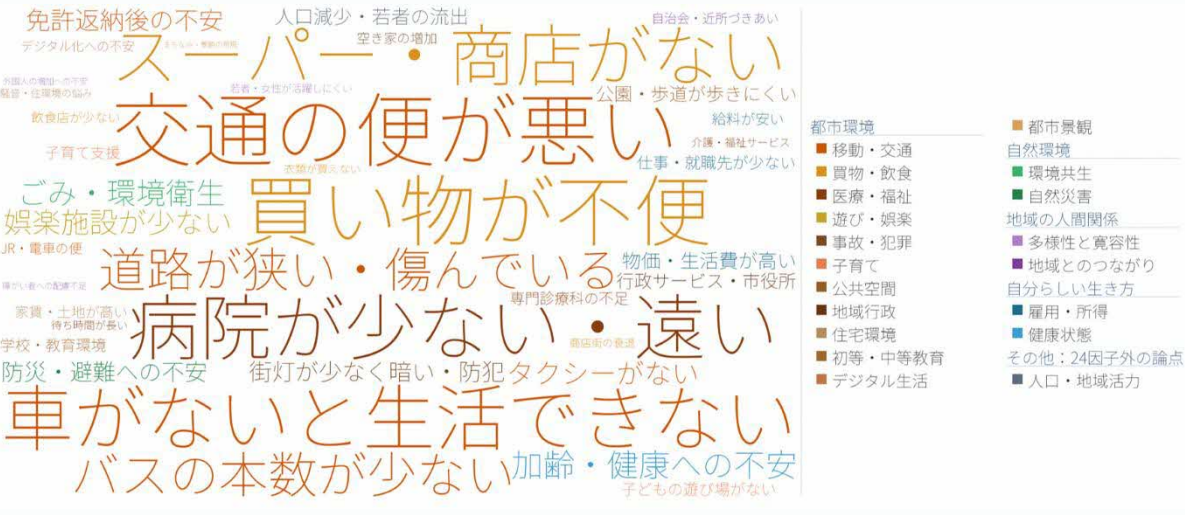


▶ 詳細は報告書「8.1 G1 好きなところ・誇りに思うところ（P.97）」参照

6.2　困っていること・不便に感じていること（G2）

「移動・交通」「買い物・飲食」「医療・福祉」に関する困りごと・不便が多く言及されており、併せて免許返納後や加齢・健康状態の変化に伴う不安も語られている。道路の狭さ・傷みに関する言及も一定見受けられる。

■困っていること・不便に感じていること

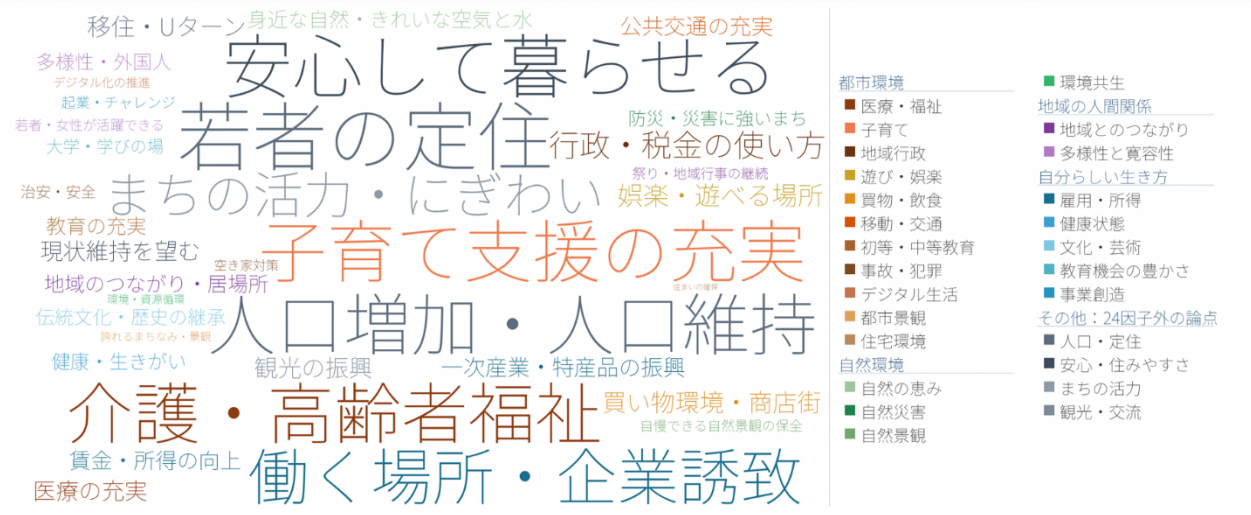


▶ 詳細は報告書「8.2 G2 困っていること・不便に感じていること（P.98）」参照

6.3　10 年後の宇和島市への想い（G3）

「安心して暮らせる」「人口増加・人口維持」といったまちの安定した基盤に関する言及のほか、「医療・福祉」「子育て」「雇用・所得」などの言及が多く、幅広い世代にとって住みやすいまちが求められていることがうかがえる。

■10 年後の宇和島市がどうなっていてほしいか



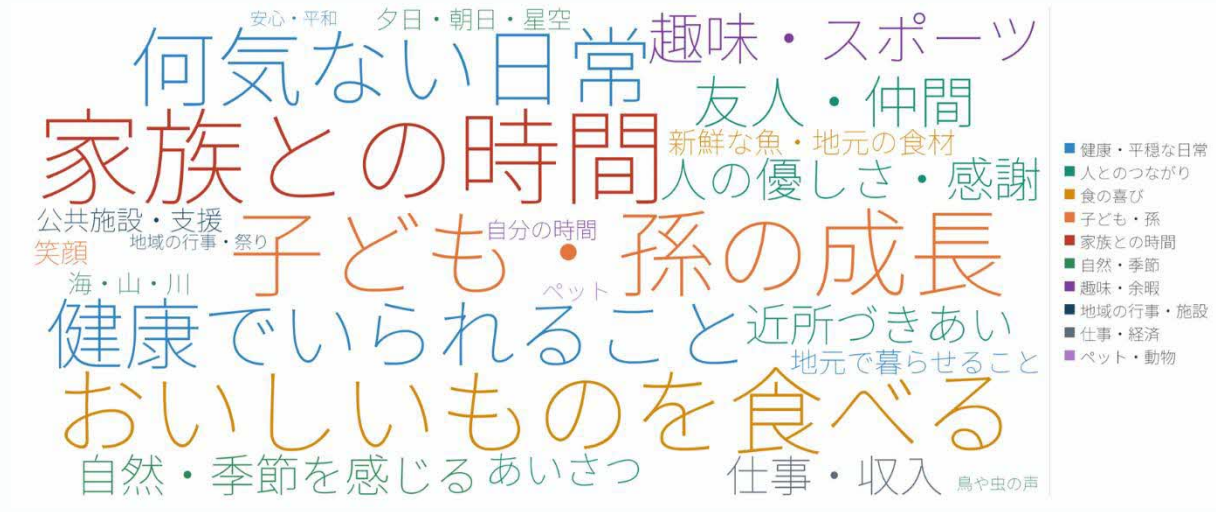
▶ 詳細は報告書「8.3 G3 10 年後の宇和島市がどうなっていてほしいか（P.99）」参照

6.4　「幸せだな」と感じる瞬間（G4）・「もっと活かせる」と感じるモノ（G5）

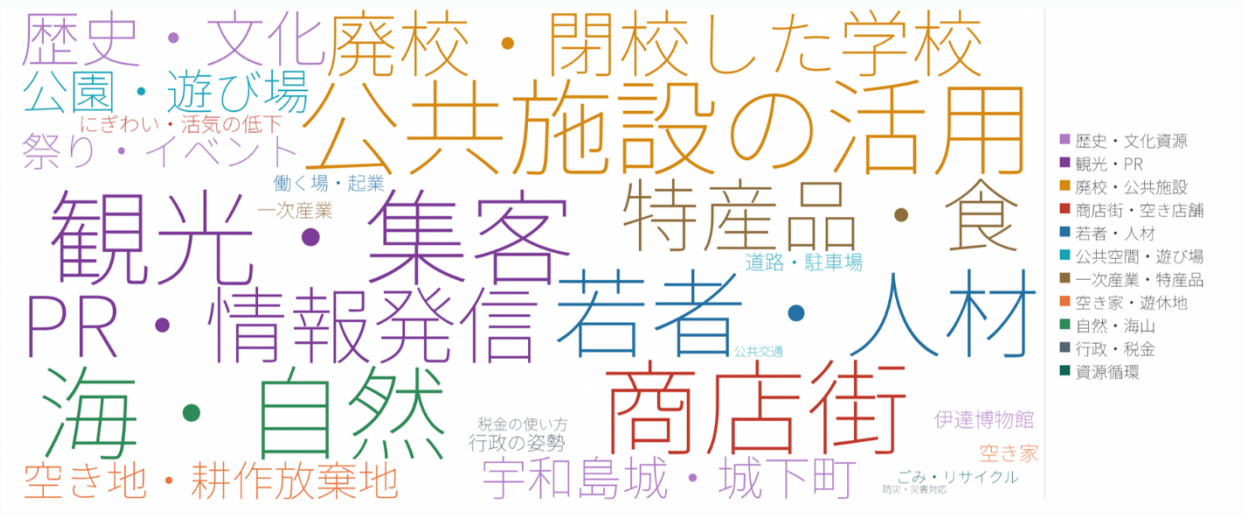
G4 では、家族など大切な人とのふれあいの時間に関する言及が多く見受けられるほか、「おいしいものを食べる」「健康でいられること」なども含め、何気ない日常に幸せを感じている様子がうかがえる。

G5 では、歴史・文化・観光資源や公共施設、人材など、まちの既存資源がもっと活かせるとの言及が多く見受けられる。「PR・情報発信」への言及も見受けられ、魅力の見せ方や届け方に改善の余地があると感じている様子がうかがえる。

■「幸せだな」と感じる瞬間やエピソード



■『もったいない』『もっと活かせるのに』と感じるモノ



▶ 詳細は報告書「8.4 G4「幸せだな」と感じる瞬間やエピソード（P.100）／8.5 G5「もったいない」「もっと活かせるのに」と感じるモノ（P.101）」参照

結果を見る際のポイント

自由記述では、選択式設問と同様に「移動・交通」「買い物・飲食」「医療・福祉」が困りごとの中心に挙がる一方、魅力としては自然・食・歴史文化に加えて「人の優しさ」「人とのつながり」が語られている。

また、既にある資源について「もったいない」「もっと活かせる」という声が多く、市民自身が、資源の実態とその伝わり方との間にずれを感じていることがうかがえる。この点は、第 3 部で扱う主観評価と客観評価の乖離とも重なる。

第 3 部　Well-Being から見た宇和島市の特徴

7. Well-Being 設問の導入と回答結果の全体傾向

7.1　Well-Being 設問を導入した経緯

本調査では、市民の暮らしの実感をより多角的に把握するため、デジタル庁の地域幸福度（Well-Being）指標を導入した。地域幸福度（Well-Being）指標は、都市環境・自然環境・地域の人間関係・自分らしい生き方の 4 群にまたがる 24 の因子で構成されており、これらを把握するための標準設問（53 問）を本調査に設けている。内訳は、幸福度・生活満足度（5 問）、生活環境（27 問）、地域の人間関係（10 問）、自分らしい生き方（11 問）である。

▶ 詳細は報告書「設問一覧②～⑦（P.5～P.10）」参照

7.2　全体的な回答傾向

48 問のうち、回答結果に特徴が見られる設問を取り上げる。いずれも 5 段階評価（非常にあてはまる＝5～全くあてはまらない＝1）の全体平均スコアであり、全 48 設問の平均は 2.78 である。

生活環境では、自宅の心地よさ（3.74～4.00）や自然の恵み（3.53～3.75）が高い一方、遊び・娯楽（1.67）、移動・交通（2.00）、飲食を楽しめる場所（2.39）、都市景観（2.42）、デジタル生活（2.46～2.61）が低位にある。「住まいの快適さ」や「自然の豊かさ」は満たされていても、「日常の選択肢の乏しさ」を感じている様子が見て取れる。

地域の人間関係では、互助意識（3.41）や地域への愛着（3.34）は高い一方、相談相手の存在（2.77）は低く、さらに見知らぬ他者への信頼（2.04）は全設問中でも下位の水準にある。既存の結びつきの強さが、外部に対する開かれにくさと表裏になっている可能性がある。

自分らしい生き方では、「良い環境や文化を残したい」（3.74）が高水準にある一方、「文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」（2.36）は突出して低い。また、雇用・所得（1.88～2.00）、事業創造（2.01）、教育機会（2.40）はいずれも低く、市内で学び・働き・挑戦するという「自己実現の選択肢」の不足が課題として表れている。

■設問別スコア：生活環境①

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	2.86	2.92	2.81	3.25	3.00	2.97	2.45	2.55	2.76	2.83	3.16	3.12	2件
C2	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	2.93	2.93	2.93	3.25	2.97	3.05	2.79	2.75	2.81	2.97	3.06	2.93	12件
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	2.97	3.03	2.92	3.50	2.70	3.03	3.07	2.95	2.87	2.94	3.14	2.69	5件
C4	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	2.39	2.43	2.36	2.50	2.67	2.72	2.58	2.38	2.29	2.23	2.40	2.09	3件
C5	生活環境	住宅環境	自宅には、心地のいい居場所がある	3.74	3.64	3.81	4.50	3.80	3.85	3.92	3.81	3.60	3.76	3.70	3.54	3件
C6	生活環境	住宅環境	【逆転項目】自宅の近辺では、騒音に悩まされている	4.00	3.92	4.05	4.33	4.30	4.16	3.96	4.02	3.94	3.95	3.95	4.02	7件
C7	生活環境	住宅環境	住んでいる地域では、適度な費用で住居を確保できる	2.77	2.85	2.70	3.67	3.03	2.87	2.58	2.67	2.86	2.79	2.76	2.72	25件

※以降すべて1～5段階尺度

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

■設問別スコア：生活環境②

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	2.00	2.05	1.96	2.33	2.03	1.94	1.96	1.86	1.85	1.98	2.24	1.91	3件
C9	生活環境	遊び・娯楽	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.67	1.67	1.67	2.50	2.17	1.67	1.56	1.60	1.58	1.59	1.88	1.45	5件
C10	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こども・子育て支援・補助が手厚い	2.51	2.49	2.51	3.33	2.67	2.76	2.54	2.42	2.47	2.44	2.52	2.41	37件
C11	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こどもたちがいきいきと暮らせる	2.73	2.76	2.69	3.75	3.10	2.88	2.87	2.64	2.68	2.57	2.79	2.67	25件
C12	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、教育環境(小中高校)が整っている	2.86	2.89	2.81	4.00	3.23	3.00	2.81	2.81	2.77	2.73	2.94	2.94	15件
C13	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	2.98	3.01	2.94	4.50	3.03	3.10	3.28	2.98	2.98	2.74	3.02	2.91	12件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

■設問別スコア：生活環境③

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
C14	生活環境	地域行政	住んでいる地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	2.64	2.65	2.62	3.75	2.73	2.79	2.46	2.48	2.65	2.66	2.68	2.75	8件
C15	生活環境	地域行政	住んでいる地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	2.52	2.60	2.46	3.75	2.77	2.63	2.43	2.42	2.53	2.51	2.57	2.48	8件
C16	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.61	2.59	2.62	3.50	2.83	2.78	2.60	2.56	2.70	2.53	2.59	2.38	29件
C17	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	2.46	2.45	2.46	3.33	3.00	2.66	2.51	2.47	2.57	2.38	2.34	2.12	29件
C18	生活環境	公共空間	住んでいる地域の雰囲気は、自分にとって心地よい	3.27	3.28	3.24	3.75	3.63	3.32	3.25	3.21	3.23	3.17	3.34	3.21	8件
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.18	3.14	3.20	4.25	3.73	3.27	2.97	2.99	3.18	3.07	3.30	3.35	5件
C20	生活環境	都市景観	住んでいる地域には、自慢できる都市景観がある	2.42	2.49	2.37	3.50	2.70	2.59	2.40	2.37	2.49	2.28	2.41	2.46	17件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

■設問別スコア：生活環境④

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
C21	生活環境	自然景観	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	3.04	3.02	3.04	3.75	3.70	3.30	3.29	2.97	3.05	2.89	2.96	2.80	9件
C22	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域では、身近に自然を感じることができる	3.75	3.70	3.79	4.25	4.23	3.99	3.96	3.80	3.85	3.63	3.59	3.49	4件
C23	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	3.53	3.50	3.55	3.75	4.13	3.34	3.42	3.47	3.59	3.48	3.66	3.40	3件
C24	生活環境	環境共生	住んでいる地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである	2.64	2.65	2.63	3.00	2.83	2.77	2.47	2.50	2.71	2.63	2.69	2.57	10件
C25	生活環境	自然災害	住んでいる地域では、防災対策がしっかりしている	2.80	2.85	2.75	3.75	3.30	2.95	2.71	2.64	2.76	2.78	2.84	2.73	12件
C26	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域は、防犯対策(交番・防犯灯・防犯カメラ・住民の見守りなど)が整っており、治安がよい	2.56	2.62	2.50	3.25	3.17	2.71	2.47	2.51	2.49	2.53	2.59	2.44	11件
C27	生活環境	事故・犯罪	住んでいる地域では、歩道や信号機が整備されていて安心である	2.73	2.75	2.69	3.75	3.33	2.94	2.72	2.53	2.76	2.67	2.73	2.56	6件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

■設問別スコア：地域の人間関係①

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.22	3.20	3.23	3.75	3.63	2.96	3.10	3.04	3.26	3.19	3.40	3.40	2件
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動など)への市民参加が盛んである	2.85	2.88	2.82	3.75	3.20	2.77	2.89	2.80	2.83	2.80	2.93	2.84	3件
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.77	2.67	2.83	3.50	3.43	2.81	2.55	2.61	2.78	2.61	2.95	2.84	3件
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	3.41	3.45	3.37	3.50	3.80	3.35	3.52	3.31	3.33	3.39	3.49	3.33	15件
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている(好きだと思っている)	3.34	3.39	3.29	4.25	4.10	3.16	3.11	3.25	3.26	3.27	3.53	3.43	12件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

■設問別スコア：地域の人間関係②

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
D6	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.57	2.62	2.53	3.25	2.90	2.55	2.53	2.41	2.53	2.51	2.72	2.61	17件
D7	地域の人間関係	多様性と寛容性	あなたは、見知らぬ他者(知らない人)であっても信頼する	2.04	2.11	1.98	1.75	2.07	1.95	1.88	1.83	2.05	2.00	2.20	2.38	16件
D8	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域の人が自分をどう思っているかが気になる	2.30	2.37	2.24	1.75	2.37	2.22	2.39	2.14	2.25	2.29	2.35	2.54	16件
D9	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	2.43	2.47	2.38	3.50	2.97	2.53	2.44	2.41	2.38	2.26	2.47	2.50	20件
D10	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.15	2.23	2.08	3.25	2.90	2.30	2.15	2.10	2.05	1.99	2.23	2.07	22件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

■設問別スコア：自分らしい生き方①

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる(好きだと感じる)	3.16	3.17	3.14	3.75	3.73	3.22	3.13	3.14	2.98	3.20	3.14	3.22	17件
E2	自分らしい生き方	健康状態	身体的に健康な状態である	3.22	3.12	3.28	3.50	4.03	3.68	3.44	3.47	3.14	3.11	2.93	2.77	10件
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.34	3.26	3.39	3.50	3.80	3.51	3.44	3.31	3.19	3.30	3.36	3.16	11件
E4	自分らしい生き方	文化・芸術	住んでいる地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	2.36	2.29	2.39	3.25	3.43	2.69	2.44	2.33	2.36	2.19	2.24	2.11	17件
E5	自分らしい生き方	文化・芸術	将来生まれてくる世代(こども)のために、良い環境や文化を残したい	3.74	3.71	3.76	4.25	3.93	3.81	4.04	3.91	3.67	3.69	3.62	3.49	18件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

■設問別スコア：自分らしい生き方②

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	属性別(性別) 男性	女性	その他	属性別(年代) 10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
E6	自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会がある	2.40	2.40	2.39	3.00	2.87	2.53	2.49	2.38	2.30	2.35	2.39	2.33	24件
E7	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、やりたい仕事を見つけやすい	1.88	1.89	1.86	2.50	2.21	2.04	1.76	1.78	1.78	1.77	2.00	1.93	26件
E8	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、適切な収入を得るための機会がある	2.00	2.02	1.98	2.50	2.60	2.26	1.88	1.92	1.96	1.94	2.02	1.85	24件
E9	自分らしい生き方	事業創造	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.01	2.03	2.00	2.25	2.67	2.23	2.00	2.04	1.92	1.89	2.02	1.80	27件
E10	自分らしい生き方	文化・芸術	私は、暮らしている地域の文化・芸術に満足している	2.45	2.42	2.45	3.25	3.37	2.68	2.49	2.42	2.42	2.25	2.45	2.22	22件
E11	自分らしい生き方	ゆとり	日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがある	3.36	3.27	3.42	4.25	4.00	3.38	3.28	3.08	3.10	3.39	3.56	3.56	16件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

▶ 詳細は報告書「2.2.1～2.2.4 設問別スコア：生活環境①～④（P.24～P.27）／2.3.1～2.3.2 同：地域の人間関係①②（P.28～P.29）／2.4.1～2.4.2 同：自分らしい生き方①②（P.30～P.31）」参照

結果を見る際のポイント

ここで確認した回答結果は、48 問それぞれの単純集計（5 段階評価の平均点）であり、第 1 部・第 2 部の設問と同様に、宇和島市の回答データそのものを示すものである。

「住まい」「自然」「つながり」「健康」といった暮らしの素地は評価される一方、「日常の選択肢」と「自己実現の選択肢」が乏しいという構造が、複数の設問に共通して表れている。

8. 性年代別・地区別に見た特徴

本章で扱う数値は 5 段階評価の平均点等の絶対値であり、第 9 章以降で扱う全国比較のための偏差値とは異なる指標である。

8.1　性年代別に見た特徴

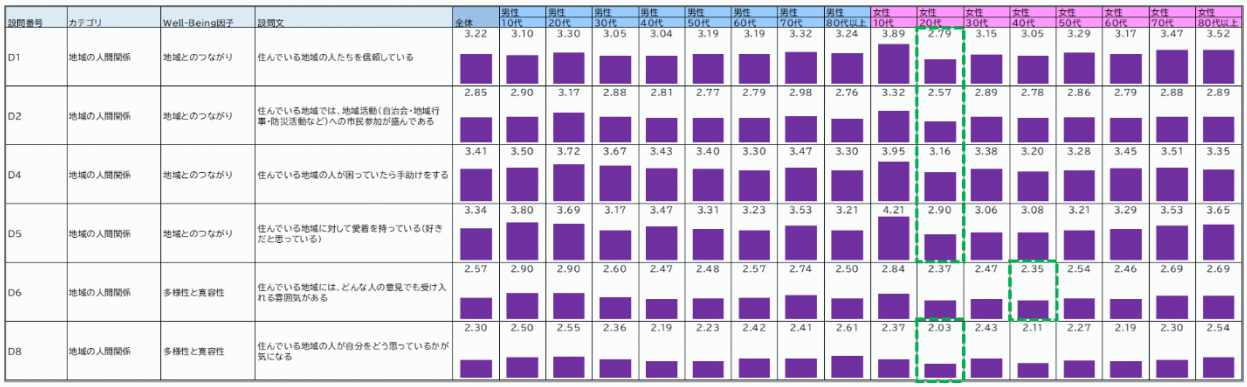
性別×年代の 16 セグメントのうち、標本数の少ない 10 代を除く 14 セグメントで比較すると、以下の特徴が見られる。

- 男性 20 代は、全 53 設問中 39 設問で 14 セグメント中最高となり、4 カテゴリすべてで最も高い。特に、市全体で最下位群にある若者の活躍・教育機会・雇用・事業創造で最高値を占めており、市の伸びしろに相当する領域をポジティブに捉えている層である。
- 女性 20〜40 代は、暮らしそのものへの評価は決して低くないにもかかわらず、地域の人間関係のみが選択的に低い。地域の人間関係 10 設問のうち 6 設問の最低値をこの層が占めている。
- 男性 30 代は「地域との関係」に関する設問で、男性 50 代は「自身の心身の余力」に関する設問で、それぞれ最低値が集中する。現役世代男性の課題は、二段階の異なる「谷」として表れている。
- 80 代以上では、男性は幸福度・満足度の全設問で 70 代より低下する一方、女性は幸福度が維持ないし上昇し、地域への愛着や見知らぬ他者への信頼が同性の 20 代以降で最高値を示す。つながりや寛容性が緩衝材として働いている可能性がある。

■男性 20 代のまちへの高い期待

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	男性 10代	男性 20代	男性 30代	男性 40代	男性 50代	男性 60代	男性 70代	男性 80代以上	女性 10代	女性 20代	女性 30代	女性 40代	女性 50代	女性 60代	女性 70代	女性 80代以上
B1	幸福度・満足度		現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.68	6.30	7.17	6.50	6.17	6.15	6.56	6.58	6.10	7.74	6.70	7.02	6.45	6.70	7.15	6.83	6.96
B2	幸福度・満足度		今から5年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	6.28	6.30	7.20	6.29	6.11	5.81	6.23	5.99	5.28	7.11	6.56	7.21	6.33	6.36	6.38	6.14	6.19
B3	幸福度・満足度		現在、あなたの住んでいる地域での生活にどの程度満足していますか。「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.72	5.20	6.40	4.90	5.57	5.43	5.82	6.05	5.66	5.79	5.32	5.60	5.02	5.43	6.01	6.29	6.26
B4	幸福度・満足度		宇和島市に住んでいる人は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。	5.43	5.33	6.56	4.65	4.86	5.13	5.81	5.54	5.46	6.05	5.41	5.33	5.02	5.19	5.40	5.78	6.00
D10	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.15	2.90	2.59	2.14	2.09	2.06	2.14	2.36	2.07	2.84	2.16	2.15	2.11	2.02	1.87	2.11	2.04
E6	自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	住んでいる地域では、学びたいことを学べる機会がある	2.40	2.90	2.90	2.36	2.47	2.28	2.28	2.36	2.33	2.79	2.33	2.62	2.31	2.30	2.42	2.41	2.31
E7	自分らしい生き方	雇用・所得	住んでいる地域では、やりたい仕事を見つけやすい	1.88	2.33	2.28	1.74	1.75	1.75	1.68	2.09	1.96	2.11	1.92	1.79	1.80	1.79	1.85	1.92	1.92
E9	自分らしい生き方	事業創造	住んでいる地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.01	2.70	2.52	1.98	2.06	1.85	1.84	2.09	1.93	2.63	2.10	2.02	2.03	1.97	1.93	1.96	1.68

■女性 20～40 代の乖離



設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	男性10代	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	男性70代	男性80代以上	女性10代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	女性70代	女性80代以上
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.22	3.10	3.30	3.05	3.04	3.19	3.19	3.32	3.24	3.89	2.79	3.15	3.05	3.29	3.17	3.47	3.52
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動など）への市民参加が盛んである	2.85	2.90	3.17	2.88	2.81	2.77	2.79	2.98	2.76	3.32	2.57	2.89	2.78	2.86	2.79	2.88	2.89
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	3.41	3.50	3.72	3.67	3.43	3.40	3.30	3.47	3.30	3.95	3.16	3.38	3.20	3.28	3.45	3.51	3.35
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている（好きだと思っている）	3.34	3.80	3.69	3.17	3.47	3.31	3.23	3.53	3.21	4.21	2.90	3.06	3.08	3.21	3.29	3.53	3.65
D6	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.57	2.90	2.90	2.60	2.47	2.48	2.57	2.74	2.50	2.84	2.37	2.47	2.35	2.54	2.46	2.69	2.69
D8	地域の人間関係	多様性と寛容性	住んでいる地域の人が自分をどう思っているかが気になる	2.30	2.50	2.55	2.36	2.19	2.23	2.42	2.41	2.61	2.37	2.03	2.43	2.11	2.27	2.19	2.30	2.54

なお、年代別の定住意向は、20 代で肯定側が 5 割を下回る一方、60 代 61.2%、70 代 76.6%、80 代以上 82.1%と、70 代を境に一段高くなる。

▶ 詳細は報告書「3.1 男性 20 代のまちへの高い期待（P.33）／3.2 女性 20～40 代の「生活実感」と「地域との関係」の乖離（P.34）／3.3 現役世代男性（30 代・50 代）の二段階の「谷」（P.35）／3.4 高齢期に男女で逆方向に開く幸福度・満足度（P.36）」参照

8.2　地区別に見た特徴

4 地区は、それぞれ異なる強み・弱みの組み合わせを持ち、生活利便性と生活の質（自然環境・地域とのつながり）との間に一定のトレードオフが見られる。

地区	最高値 設問数	最低値 設問数	特徴
宇和島地区	20/53	—	生活利便性の評価が高い一方、地域とのつながり（D1～D5）は 5 設問すべてで 4 地区中最低。市街地性の高さが表れている。
吉田地区	8/53	4/53	最高値・最低値ともに少なく、突出した弱みがない点が特徴的。子育て支援、文化・芸術、ゆとりの評価が高い。
三間地区	25/53	—	地域とのつながり・自然環境・住宅環境の評価が高く、総合指標も 4/5 設問で最高。一方、生活利便性では最低値が複数。
津島地区	0/53	25/53	幅広い設問で他地区を少しずつ下回る。総合指標も 5 設問すべてで最低。突出した強みが他の弱さを補う構図になっていない。

■地区ごとの Well-Being（宇和島地区）

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	無回答
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	2.86	3.03	2.67	2.18	2.62	2件
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	2.97	3.22	2.42	2.24	2.68	5件
C4	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	2.39	2.64	1.81	1.68	2.05	3件
C12	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、教育環境(小中高校)が整っている	2.86	3.00	2.82	2.62	2.25	15件
C13	生活環境	初等・中等教育	住んでいる地域では、通学しやすい場所に学校がある	2.98	3.13	2.60	2.92	2.54	12件
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.77	2.67	2.96	3.01	2.96	3件
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	3.41	3.36	3.54	3.58	3.45	15件

■地区ごとの Well-Being（吉田地区）

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	無回答
C10	生活環境	子育て	住んでいる地域では、こども・子育て支援・補助が手厚い	2.51	2.51	2.68	2.41	2.36	37件
E4	自分らしい生き方	文化・芸術	住んでいる地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	2.36	2.35	2.45	2.38	2.28	17件
E10	自分らしい生き方	文化・芸術	私は、暮らしている地域の文化・芸術に満足している	2.45	2.46	2.52	2.42	2.29	22件
E11	自分らしい生き方	ゆとり	日頃の生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがある	3.36	3.37	3.40	3.27	3.36	16件
C16	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.61	2.64	2.51	2.55	2.54	29件
C19	生活環境	公共空間	住んでいる地域には、まちなか、公園、川沿いなどで、心地よく歩ける場所がある	3.18	3.20	3.00	3.34	3.18	5件
C21	生活環境	自然景観	住んでいる地域には、自慢できる自然景観がある	3.04	3.03	2.97	3.13	3.10	9件
C24	生活環境	環境共生	住んでいる地域では、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである	2.64	2.68	2.50	2.63	2.60	10件

■地区ごとの Well-Being（三間地区）

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	無回答
C23	生活環境	自然の恵み	住んでいる地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	3.53	3.44	3.67	3.81	3.75	3件
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.22	3.16	3.29	3.44	3.35	2件
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動（自治会・地域行事・防災活動など）への市民参加が盛んである	2.85	2.80	2.97	3.01	2.93	3件
E1	自分らしい生き方	自己効力感	自分のことを好ましく感じる（好きだと感じる）	3.16	3.17	3.13	3.22	3.08	17件
E2	自分らしい生き方	健康状態	身体的に健康な状態である	3.22	3.24	3.20	3.27	3.07	10件
E3	自分らしい生き方	健康状態	精神的に健康な状態である	3.34	3.35	3.27	3.55	3.22	11件
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	2.00	2.15	1.78	1.46	1.76	3件
C9	生活環境	遊び・娯楽	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.67	1.75	1.57	1.32	1.63	5件

■地区ごとの Well-Being（津島地区）

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	無回答
C1	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域は、医療機関が充実している	2.86	3.03	2.67	2.18	2.62	2件
C2	生活環境	医療・福祉	住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	2.93	3.00	2.92	2.65	2.75	12件
C3	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域は、日常の買い物にまったく不便がない	2.97	3.22	2.42	2.24	2.68	5件
C4	生活環境	買物・飲食	住んでいる地域では、飲食を楽しめる場所が充実している	2.39	2.64	1.81	1.68	2.05	3件
C8	生活環境	移動・交通	住んでいる地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	2.00	2.15	1.78	1.46	1.76	3件
C9	生活環境	遊び・娯楽	住んでいる地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.67	1.75	1.57	1.32	1.63	5件
C16	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.61	2.64	2.51	2.55	2.54	29件
C17	生活環境	デジタル生活	住んでいる地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	2.46	2.51	2.31	2.31	2.39	29件

三間地区の高い幸福度・満足度が地域とのつながりや自然環境・住宅環境に支えられていることに鑑みると、生活利便性向上の取組を図る際も、これらの基盤を損なわない形で進めることが肝要となる。

▶ 詳細は報告書「5.1 宇和島地区（P.48）／5.2 吉田地区（P.49）／5.3 三間地区（P.50）／5.4 津島地区（P.51）／4.1 設問別スコア：総合指標（P.38）」参照

結果を見る際のポイント

性年代別・地区別の集計には回答者数が少ない区分も含まれるため、個別の数値のみで評価を断定せず、複数設問に共通する傾向を中心に確認する必要がある。

つながりの実感が弱い層（宇和島地区、女性 20〜40 代、男性 30 代、子育て世帯）は、定住意向が相対的に低い層とも重なっている。次章からは、これらの 48 問を 24 因子に整理し、全国の他自治体と比較した偏差値による分析に移る。

9. Well-Being 指標の見方

9.1　偏差値化の仕組み

これまでのページで確認した Well-Being 設問（53 問）の回答データは、デジタル庁が運用する地域幸福度（Well-Being）ダッシュボードへ提出することで、全国の他自治体と比較した偏差値に変換される。具体的には、48 問の回答を 24 の因子（住宅環境、地域とのつながり、子育て等）に整理したうえで、各因子について「主観偏差値」と「客観偏差値」の 2 種類が算出される。

主観偏差値は、本調査の Well-Being 設問（アンケート）の回答結果をもとに算出される。客観偏差値は、人口動態や施設整備状況など、国や関係機関が公表するオープンデータをもとに算出される。両者を比較することで、市民の実感（主観）と、統計上の実態（客観）との違いを確認することができる。

9.2　偏差値の見方

偏差値は、全国の自治体の平均を 50 とし、そこからの乖離を数値化したものである。値が大きいほど全国平均を上回り、小さいほど下回ることを示す。本資料では、偏差値の水準を次のとおり整理して用いる。

偏差値の目安	水準の解釈
60 以上	高水準にある（全国平均を上回る）
50 前後	中位にある（全国平均に近い）
40 未満	低水準にある（全国平均を下回る）
30 以下／70 以上	最低水準にある／最高水準にある（極端値）

▶ 詳細は報告書「第 9 章：Well-Being 因子分析 扉（P.102）」参照

偏差値を読む際の留意点

ここから先で扱う数値は、幸福度・生活満足度の点数を除き、原則としてすべて偏差値である。偏差値はあくまで全国の他自治体と比較した相対的な位置を示すものであり、市民の回答そのもの（%や平均点）とは異なる指標である点に留意されたい。

出典：デジタル庁「地域幸福度（Well-Being）ダッシュボード」（https://well-being.digital.go.jp/dashboard/）を基に、弊社にて一部加工。

9.3　相関係数の見方

相関係数とは、2 つの指標の間にどの程度の関連があるかを数値で示したものである。値は－1 から 1 までの範囲を取り、値が 0 に近いほど関連が弱く、絶対値が 1 に近いほど、2 つの指標が同時に高くなる（または一方が高いときにもう一方が低くなる）傾向が強いことを示す。

相関係数の目安	関連の強さ
0.1 未満	ほぼ関連なし
0.1〜0.4	弱い関連
0.4〜0.7	中程度の関連
0.7 以上	強い関連

▶ 詳細は報告書「10.0 因子間相関とは（P.118）」参照

因果関係ではないことへの注意

相関係数は、あくまで 2 つの指標が同時に動く傾向の強さを示すものであり、一方が他方の原因であることを意味しない。例えば、「地域とのつながりが強いほど生活満足度が高い」という関連が見られたとしても、地域とのつながりを高めれば必ず生活満足度が向上するとは限らず、他の要因が影響している可能性もある。

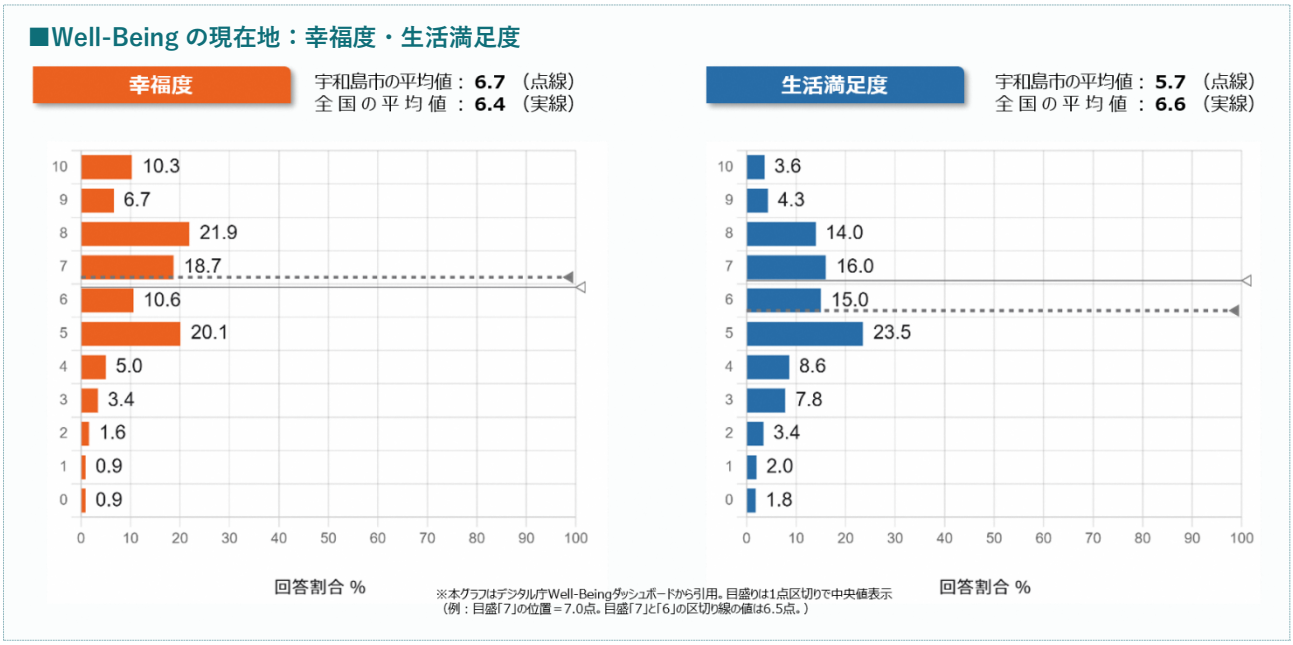
相関係数は、政策の優先順位や組み合わせを検討する際の参考情報として活用し、断定的な因果関係の根拠としては用いないよう留意する必要がある。

10. 幸福度・生活満足度の全体傾向

10.1　幸福度・生活満足度の水準

宇和島市の幸福度は 6.7 点であり、全国平均の 6.4 点を 0.3 ポイント上回っている。一方、生活満足度は 5.7 点であり、全国平均の 6.6 点を 0.9 ポイント下回っている。すなわち、宇和島市の市民は、自分自身の幸福感については全国平均より高く評価している一方、地域での暮らしそのものへの満足度は全国平均を下回っている。

さらに、宇和島市に住んでいる人が全体としてどれくらい幸せだと思うかを尋ねた地域幸福感は 5.43 点であり、個人としての幸福度（6.68 点）を 1.25 ポイント下回る。個人の幸福感に比べて、地域に対する評価が低いという構造が、複数の設問に共通して表れている。



※B4（地域幸福感）において「わからない」を選んだ回答は 127 件（13.5%）。

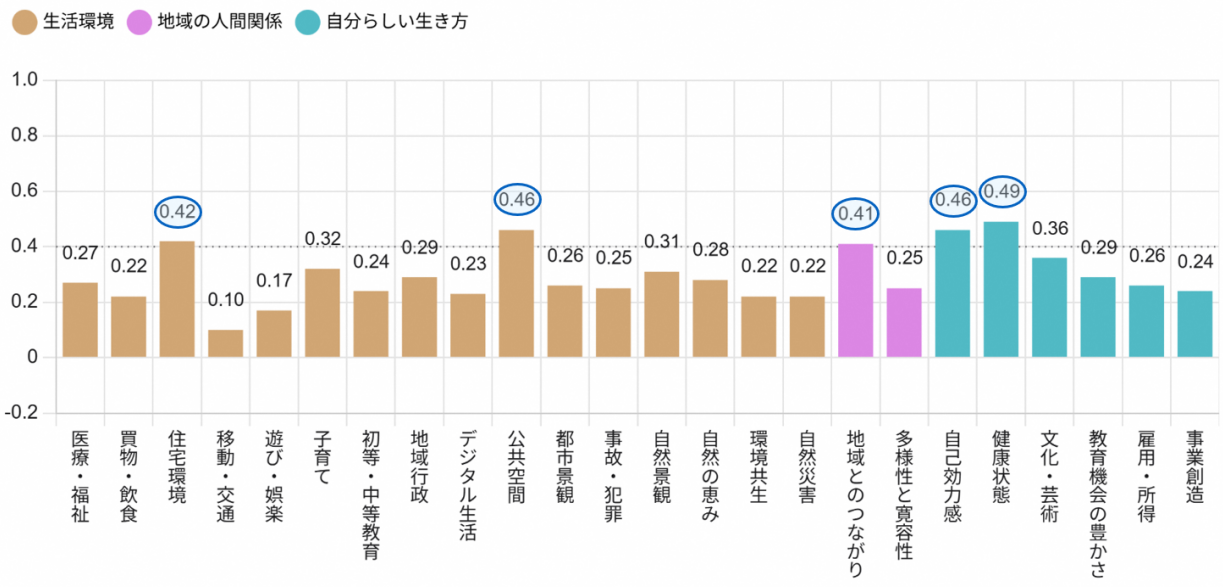
▶ 詳細は報告書「9.1 Well-Being の現在地：幸福度・生活満足度（P.103）／2.1 設問別スコア：総合指標（P.23）」参照

10.2　幸福度・生活満足度と関連の強い因子

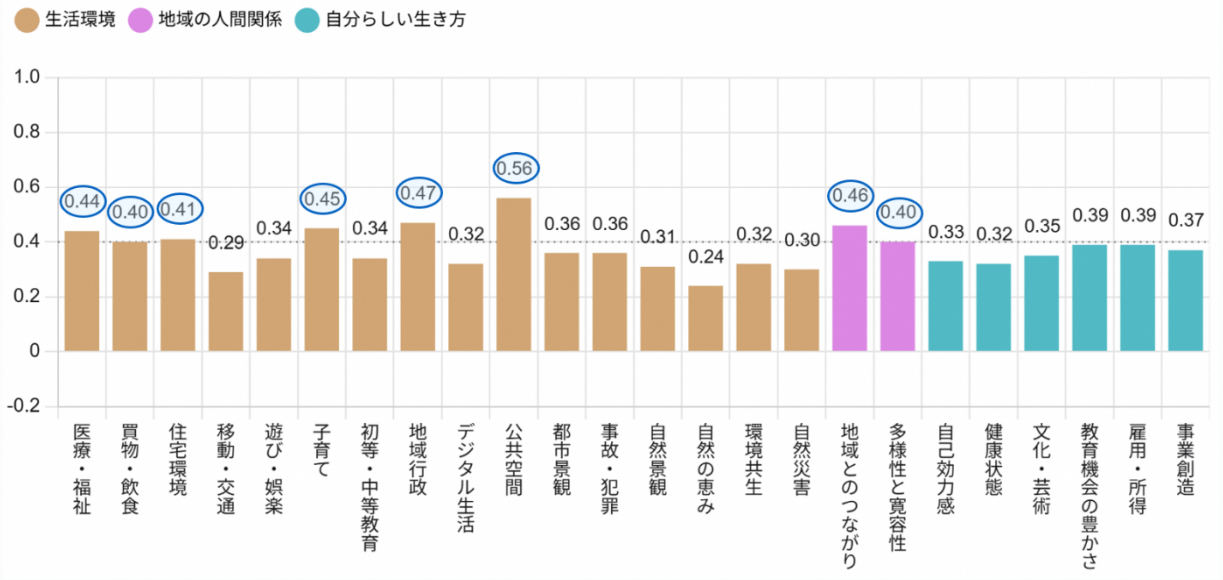
幸福度との相関が高い因子は、健康状態（0.49）、自己効力感・公共空間（ともに 0.46）、住宅環境（0.42）、地域とのつながり（0.41）の順となっている。一方、移動・交通（0.10）や遊び・娯楽（0.17）との相関は低い。幸福度は心身の健康と自己肯定感に、住まいや公共空間といった居場所の要素が重なって形づくられており、利便性の向上だけでは高まりにくい構造がうかがえる。

生活満足度との相関が高い因子は、公共空間（0.56）、地域行政（0.47）、地域とのつながり（0.46）、子育て（0.45）、医療・福祉（0.44）の順となっている。幸福度で上位であった健康状態（0.32）や自己効力感（0.33）は相対的に低い一方、幸福度では中～下位であった多様性と寛容性・買い物・飲食（ともに 0.40）が相対的に高く、幸福度とは異なる構造が見られる。

■幸福度と各因子の相関



■生活満足度と各因子の相関



▶ 詳細は報告書「9.2 幸福度と各因子の相関（P.104）／9.4 生活満足度と各因子の相関（P.106）／9.3 幸福度と設問の相関（P.105）／9.5 生活満足度と設問の相関（P.107）」参照

結果を見る際のポイント

幸福度は個人の内面的な充足（健康状態・自己効力感）と強く結びついている一方、生活満足度は公共空間や地域とのつながりなど、暮らしを取り巻く環境との結びつきが強い。

宇和島市は「幸福度は全国平均以上、生活満足度は全国平均以下」という状態にある。生活満足度を高める鍵が、公共空間・地域行政・地域とのつながりにあることが、相関から示されている。

11. Well-Being 指標から見た宇和島市の特徴

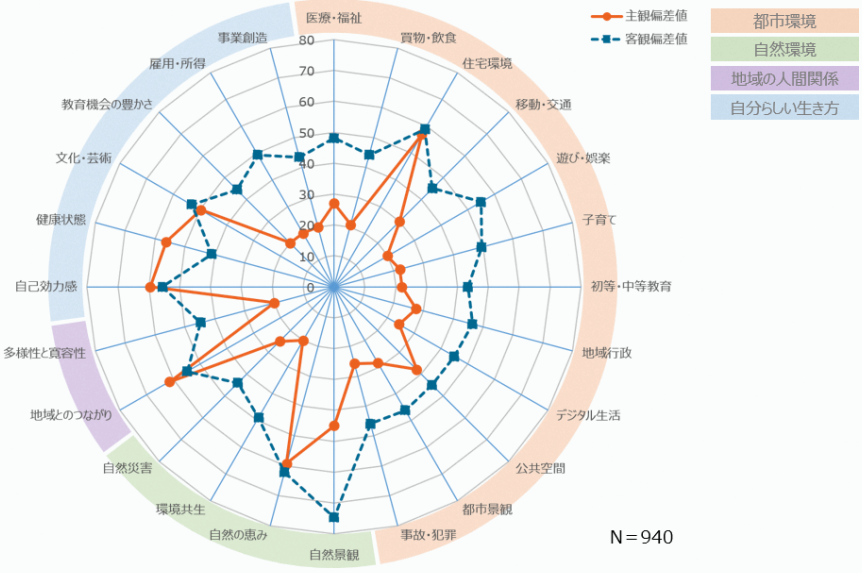
11.1　全体的な特徴

24 因子のうち 21 因子で主観偏差値が客観偏差値を下回り、平均差分は▲16.2 に達する。主観が客観を上回るのは、健康状態（＋15.3）、地域とのつながり（＋6.6）、自己効力感（＋3.9）の 3 因子にとどまる。

一方、乖離が特に大きいのは、遊び・娯楽（▲35.0）、自然景観（▲29.7）、雇用・所得（▲29.3）、環境共生（▲28.9）、子育て（▲27.4）である。客観的な地域資源やサービス水準が住民の実感に必ずしも結び付いておらず、実態の改善に加えて、既にある強みや取組を住民に伝える営みが重要と考えられる。

■因子別の偏差値

Well-Being因子群	Well-Being因子	主観偏差値		客観偏差値	主観−客観
都市環境	医療・福祉	27.0	<	48.1	▲ 21.1
都市環境	買物・飲食	20.8	<	44.2	▲ 23.4
都市環境	住宅環境	56.9	<	58.9	▲ 2.0
都市環境	移動・交通	30.0	<	45.1	▲ 15.1
都市環境	遊び・娯楽	20.0	<	55.0	▲ 35.0
都市環境	子育て	22.1	<	49.5	▲ 27.4
都市環境	初等・中等教育	22.0	<	43.4	▲ 21.4
都市環境	地域行政	27.5	<	46.4	▲ 18.9
都市環境	デジタル生活	24.3	<	45.0	▲ 20.7
都市環境	公共空間	37.9	<	44.9	▲ 7.0
都市環境	都市景観	28.5	<	46.1	▲ 17.6
都市環境	事故・犯罪	25.7	<	45.9	▲ 20.2
自然環境	自然景観	44.9	<	74.6	▲ 29.7
自然環境	自然の恵み	59.2	<	62.1	▲ 2.9
自然環境	環境共生	20.0	<	48.9	▲ 28.9
自然環境	自然災害	24.9	<	44.0	▲ 19.1
地域の人間関係	地域とのつながり	61.5	>	54.9	6.6
地域の人間関係	多様性と寛容性	20.0	<	44.7	▲ 24.7
自分らしい生き方	自己効力感	59.5	>	55.6	3.9
自分らしい生き方	健康状態	56.3	>	41.0	15.3
自分らしい生き方	文化・芸術	49.8	<	53.2	▲ 3.4
自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	20.0	<	44.4	▲ 24.4
自分らしい生き方	雇用・所得	20.0	<	49.3	▲ 29.3
自分らしい生き方	事業創造	20.0	<	43.4	▲ 23.4



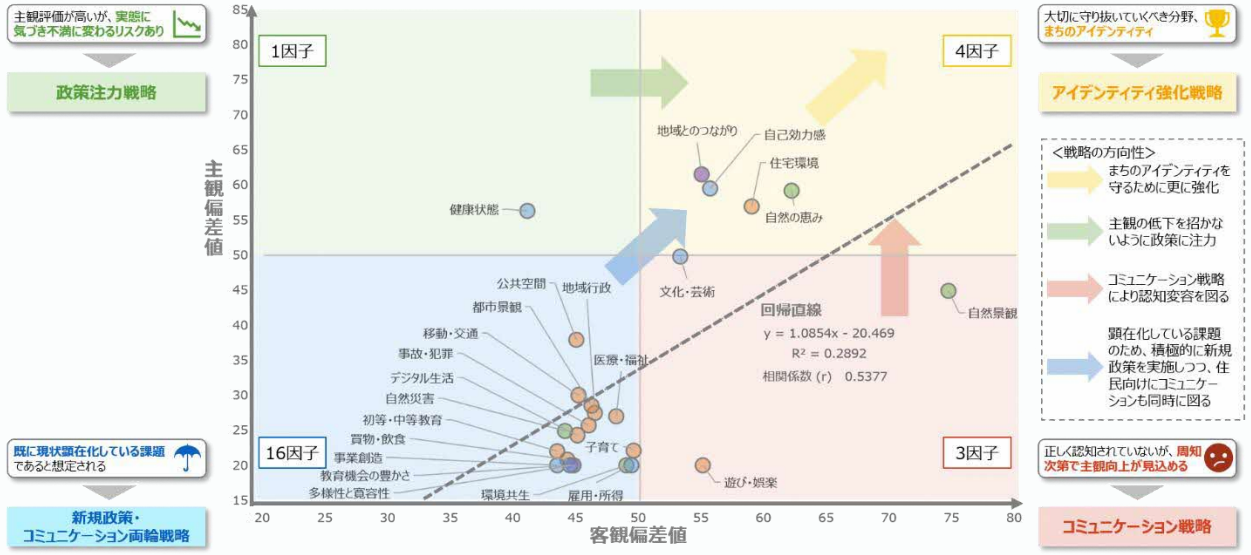
※24 因子全体の平均差分は▲16.2。

▶ 詳細は報告書「9.6 全体的な特徴の把握（P.108）／9.7・9.8 主観評価：設問別偏差値（P.109～P.110）／9.9～9.12 客観評価：オープンデータ別偏差値（P.111～P.114）」参照

11.2　象限別に見た宇和島市の特徴

主観偏差値・客観偏差値それぞれ 50 を境界として 24 因子を 4 つの象限に分類すると、政策上の位置づけが異なる 4 つの群として整理できる。

■客観×主観の象限別分析



象限	因子数	該当因子	戦略の方向性
主観高・客観高	**4**	住宅環境、自然の恵み、地域とのつながり、自己効力感	アイデンティティ強化戦略 まちの強みを守り、さらに伸ばす
主観高・客観低	1	健康状態	政策注力戦略 主観の低下を招かないよう実態を底上げ
主観低・客観高	3	遊び・娯楽、自然景観、文化・芸術	コミュニケーション戦略 周知により認知変容を図る
主観低・客観低	16	公共空間、医療・福祉、移動・交通 ほか 13 因子	新規政策・コミュニケーション両輪戦略 新規施策と住民周知を同時に進める

▶ 詳細は報告書「9.13 客観×主観の象限別分析（P.115）／9.14 主観バイアス分析（P.116）」参照

結果を見る際のポイント

住宅環境、自然の恵み、地域とのつながり、自己効力感は主観・客観がともに 50 を上回り、宇和島市の中核的な強みである。

遊び・娯楽、自然景観、文化・芸術は、客観的な水準は高いにもかかわらず正しく認知されておらず、周知次第で主観の向上が見込める領域である。

一方、公共空間を含む 16 因子は主観・客観の双方に課題があり、投資と周知の両方が求められる。次章では、因子同士の関連を因子間相関から確認する。

12. 因子間相関から見た宇和島市の構造

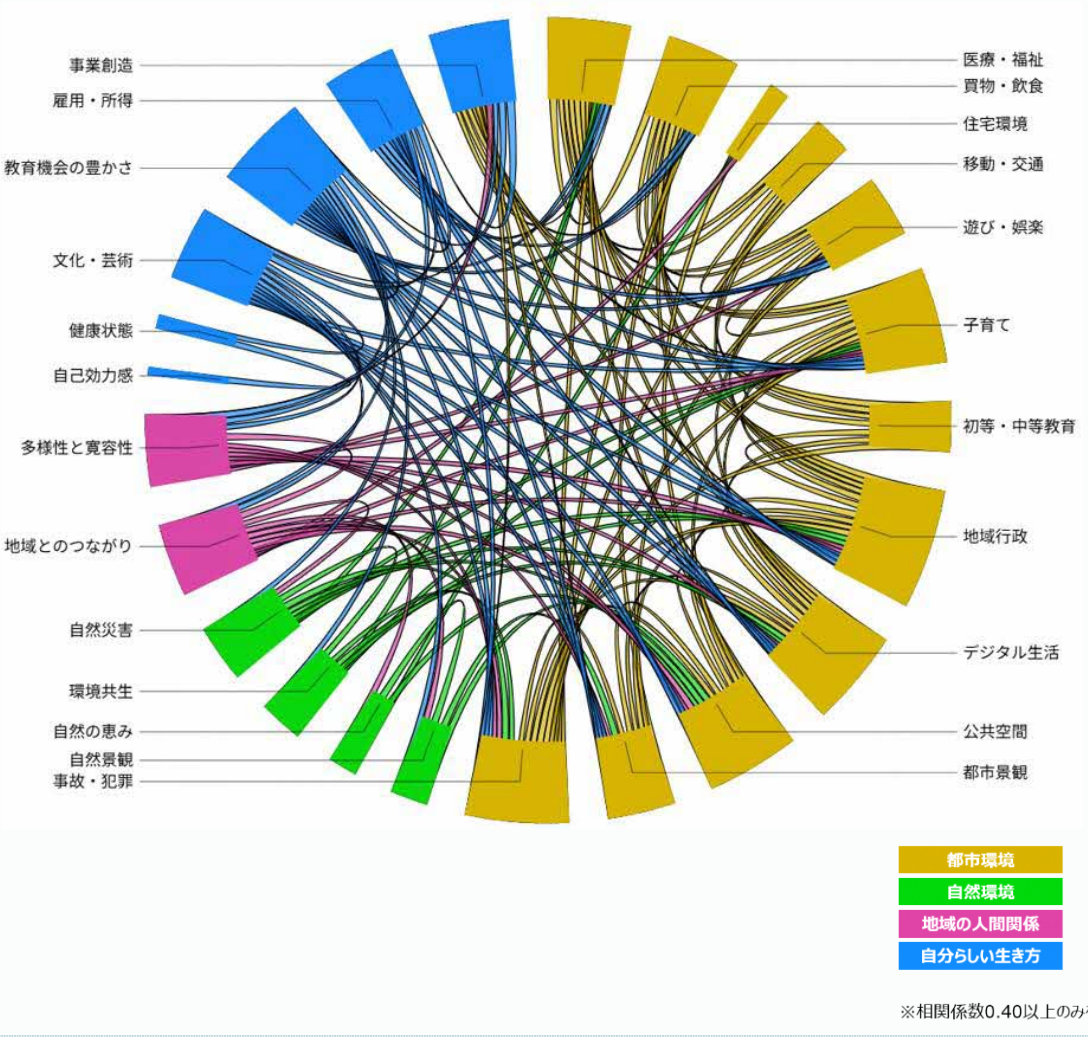
12.1　因子間相関の全体像

24 因子間の相関係数を見ると、最も強い相関は雇用・所得と事業創造（0.75）である。次いで、医療・福祉と買物・飲食、地域行政とデジタル生活（いずれも 0.64）の相関が強い。

地域行政は、相関係数 0.4 以上の因子が 18 因子にのぼり、様々な因子との相関が高いことから、複数因子をつなぐハブ的な位置にあるといえる。地域行政への取組は、他の複数因子にも波及効果が期待できる。

一方、主観評価の高かった自己効力感・健康状態・住宅環境・自然の恵みは、いずれも他因子との相関が比較的低く、他分野の影響を受けにくい独立性の高い因子である。同じく主観評価の高かった地域とのつながりは、相関係数 0.4 以上の因子が 11 あり、他因子との一定の相関が見られる。強みを核とした取組の起点となり得る。

■因子間相関の弦グラフ



※相関係数0.40以上のみを表示

▶ 詳細は報告書「10.1 因子間相関係数（一覧）（P.119）／10.2 因子間相関の弦グラフ（P.120）」参照

12.2　論点の選定について

数ある因子の中から、以下の 2 つの観点により論点を選定した。

選定の観点	該当因子	根拠
①強みとして維持・活用すべきであり、他因子への波及が期待される因子	**地域とのつながり**	主観偏差値 61.5 は 24 因子中最高。主観が客観を上回る 3 因子の一つであり、かつ相関 0.4 以上の因子が 11 ある
②生活満足度の低さに直結し、実態と実感の双方に課題がある因子	**公共空間ほか利便性関連因子**	公共空間は生活満足度との相関が 0.56 で 24 因子中最高。移動・交通、買物・飲食、医療・福祉は転出理由の上位とも一致

因子	相関 0.4 以上の因子数	位置づけ
地域行政	**18**	最も多くの因子と連動するハブ的な因子
公共空間	14	生活満足度との相関が 24 因子中最高（0.56）
地域とのつながり	**11**	主観優位の強みでありながら、他因子への波及が期待できる
自然の恵み／住宅環境／自己効力感	4／3／1	強みだが独立性が高く、他分野への波及は限定的

▶ 詳細は報告書「10.1 因子間相関係数（一覧）（P.119）／11.1 まちづくりの論点化（P.122）」参照

結果を見る際のポイント

地域行政は多くの因子と関連するハブ的な因子であり、この因子への取組は他の複数因子にも波及効果が期待できる。

一方、宇和島市の強みである自己効力感・住宅環境・自然の恵みは独立性が高く、他因子への波及は限定的である。同じ強みでも、地域とのつながりだけは他因子と一定の相関を持つ点が、論点①を選定した理由である。

第 4 部　計画検討に向けた論点とまとめ

13. まちづくりの論点化

アンケート結果及び Well-Being 因子分析の結果を踏まえ、宇和島市におけるまちづくりの論点を 2 つに整理した。

	論点① 「地域とのつながり」を核に、 生活満足度を高める	論点② 暮らしの利便性 －実態の改善と「実感」への転換
選定の 観点	強みとして維持・活用すべきであり、他因子への波及が期待される因子	生活満足度の低さに直結し、実態と実感の双方に課題がある因子
主な 分析結果	・地域とのつながりの主観偏差値 61.5 は 24 因子中最高。主観が客観を上回る 3 因子の一つ（P.108） ・生活満足度との相関は公共空間 0.56 が最高、地域とのつながり 0.46 が 3 位（P.106） ・地域とのつながりと最も強く結び付く因子は公共空間（0.62）（P.119） ・市への愛着・地区定住意向はともに公共空間・地域とのつながりと関連が強い（P.93・P.94）	・幸福度 6.7 は全国平均を 0.3pt 上回る一方、生活満足度 5.7 は 0.9pt 下回る（P.103） ・転出・転居検討理由の上位は交通 53.5%、買い物 47.8%（P.55） ・主観偏差値は移動・交通 30.0、買物・飲食 20.8、医療・福祉 27.0 と低水準（P.108・P.109） ・24 因子中 21 因子で主観が客観を下回り、平均差は▲16.2（P.108）

▶ 詳細は報告書「11.1 まちづくりの論点化（P.122）」参照

14. 論点①：「地域とのつながり」を核に、生活満足度を高める

14.1　現状・課題認識

地域とのつながりは、主観偏差値 61.5、客観偏差値 54.9 であり、主観・客観がともに 50 を上回る、宇和島市の中核的な強みである。主観が客観を上回るのは、24 因子のうち健康状態（＋15.3）、地域とのつながり（＋6.6）、自己効力感（＋3.9）の 3 因子にとどまり、24 因子の平均差が▲16.2 である中で、住民の実感が実態を上回って評価されている数少ない領域である。

同じ「アイデンティティ強化戦略」の象限にある住宅環境・自然の恵み・自己効力感が他因子との相関が低く独立性が高いのに対し、地域とのつながりは相関 0.4 以上の因子が 11 あり、他分野へ波及しやすい。自由記述でも「人が優しい」「人とのつながり」が宇和島市の魅力として挙げられており、定量・定性の双方から裏付けられる強みといえる。

一方、生活満足度と最も強く結び付く公共空間は、主観 37.9・客観 44.9 とともに 50 を下回り、「新規政策・コミュニケーション両輪戦略」の象限にある。その公共空間と最も強い相関を示すのが地域とのつながり（0.62）であり、両者は相互に高め合う関係にある。

Well-Being 因子	主観 偏差値	客観 偏差値	主観－ 客観	相関 0.4 以上 の因子数
地域とのつながり	**61.5**	**54.9**	**＋6.6**	**11**
自己効力感	59.5	55.6	＋3.9	1
自然の恵み	59.2	62.1	▲2.9	4
住宅環境	56.9	58.9	▲2.0	3
（参考）公共空間	37.9	44.9	▲7.0	14

▶ 詳細は報告書「11.2.1 論点①（1/4）（P.123）／9.6 全体的な特徴の把握（P.108）」参照

14.2　生活満足度との関係

生活満足度との相関は公共空間 0.56 が 24 因子中最も高く、地域行政 0.47、地域とのつながり 0.46 が続く。一方、幸福度で上位であった健康状態 0.32・自己効力感 0.33 は相対的に低い。

また、地域とのつながりと最も強く結び付く因子は公共空間（0.62）であり、市への愛着・地区定住意向もこれら 2 因子と比較的強い関連を示す。公共空間・地域とのつながりの 2 因子への働きかけは、生活満足度の向上と定住の双方に効果が期待できる。

■生活満足度との相関（上位 5 因子）と地域とのつながりと相関の強い因子

生活満足度との相関（上位5因子）

順位	Well-Being因子	相関係数
1	**公共空間**	**0.56**
2	地域行政	0.47
3	**地域とのつながり**	**0.46**
4	子育て	0.45
5	医療・福祉	0.44

地域とのつながりと相関の強い因子

順位	Well-Being因子	相関係数
1	**公共空間**	**0.62**
2	多様性と寛容性	0.60
3	自然景観	0.51
3	自然の恵み	0.51
5	文化・芸術	0.48

▶ 詳細は報告書「11.2.2 論点①（2/4）（P.124）／7.9.1 宇和島市への愛着×Well-Being 指標（P.93）／7.9.2 地区定住意向×Well-Being 指標（P.94）」参照

14.3　つながりの実感が弱い層

地域とのつながりの 5 設問（D1～D5）はいずれも三間地区が最も高く、宇和島地区が最も低い。市中心部を含む市街地性の高い宇和島地区で、支え合いの実感が弱い傾向が見られる。

また、全体では「地域の人が困っていたら手助けをする」（D4）が 3.41 であるのに対し、「困ったときに相談できる人が身近にいる」（D3）は 2.77 と 0.64 ポイント低い。「支える意思」はあっても「頼れる実感」が伴っていない状態であり、この乖離はつながりを広げる余地とも捉えることができる。

対象	分析結果	報告書の該当箇所
宇和島地区	D1～D5 の 5 設問すべてで 4 地区中最も低い	4.3.1（P.43） 5.1（P.48）
女性 20～40 代	地域の人間関係 10 設問のうち 6 設問で最低値を占める	3.2（P.34）
男性 30 代	地域での生活満足度や相談相手の身近さで最低値	3.3（P.35）
居住 1～5 年未満	D3・幸福度が最も低いのは居住 5～10 年未満層だが、転出意向が強まり始めるのは居住 1～5 年未満層のため、施策の着目点は後者とする	7.6.1（P.79） 7.6.3（P.81） 7.3（P.75）
18 歳未満の子がいる層	地域とのつながりに関する設問が全体的に低い。定住意向も 55.5%と全層で最も低い	7.8.4（P.91） 7.5（P.77）

■設問別スコア：地域の人間関係①

設問番号	カテゴリ	Well-Being因子	設問文	全体	地区別 宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	無回答
D1	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人たちを信頼している	3.22	3.16	3.29	3.44	3.35	2件
D2	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動など)への市民参加が盛んである	2.85	2.80	2.97	3.01	2.93	3件
D3	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	2.77	2.67	2.96	3.01	2.96	3件
D4	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域の人が困っていたら手助けをする	3.41	3.36	3.54	3.58	3.45	15件
D5	地域の人間関係	地域とのつながり	住んでいる地域に対して愛着を持っている(好きだと思っている)	3.34	3.30	3.44	3.55	3.32	12件

赤枠：相対的に高い値　青枠：相対的に低い値

これらの層は、いずれも定住意向が相対的に低い層と重なっている。20 代の定住意向は 5 割を下回り、18 歳未満の子がいる層も 55.5%と全層で最も低い。

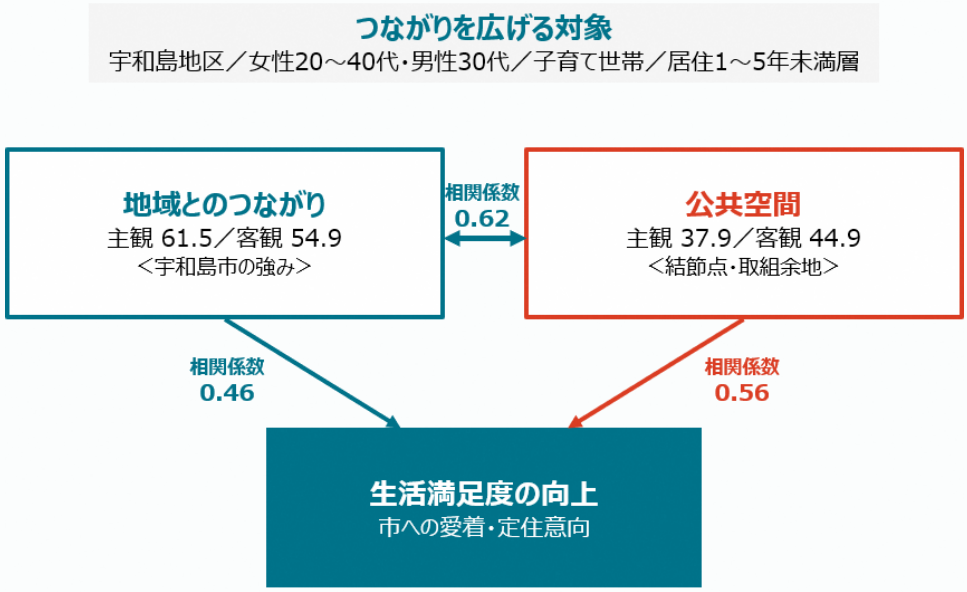
▶ 詳細は報告書「11.2.3 論点①（3/4）（P.125）／4.3.1 設問別スコア：地域の人間関係①（P.43）／7.1.1 年齢×地区定住意向（P.67）」参照

14.4　取組の方向性

強みである「地域とのつながり」を起点に、生活満足度と最も強く結び付く「公共空間」の実態を底上げすることで、暮らしの満足度と定住意向の双方を押し上げる方向性が考えられる。

方向性	内容
強みを守る	地域とのつながりは市のアイデンティティを形づくる強みであり、人口減少が進むなかでも、その水準を維持することが前提となる。
実態を 底上げする	人が集い交流できる場として公共空間を再定義し、まちなか・公園・川沿い等の居場所の質を高めることで実態を底上げする。公共空間の充実は、地域とのつながりと相互に効果を発揮する可能性がある。
つながりを 広げる	市街地や子育て世帯、転入後間もない層に対しては、日常の延長で人と出会える場や相談できる先を増やすことが、「頼れる実感」の向上につながり得る。

■地域とのつながり→公共空間→生活満足度・定住意向



※数値は生活満足度との相関係数および因子間相関係数

▶ 詳細は報告書「11.2.4 論点①（4/4）（P.126）」参照

結果を見る際のポイント

公共空間は生活満足度との相関が 24 因子中最も高く（0.56）、この因子への投資は暮らしの満足度を最も直接的に押し上げる打ち手といえる。

宇和島市への愛着は公共空間・地域とのつながり・文化・芸術と、地区定住意向は公共空間・地域とのつながりと、それぞれ比較的強い関連を示す。この 2 因子への働きかけは、生活満足度の向上と定住の双方に効果が期待できる。

15. 論点②：暮らしの利便性－実態の改善と「実感」への転換

15.1　現状・課題認識

幸福度は 6.7 と全国平均 6.4 を 0.3 ポイント上回る一方、生活満足度は 5.7 と全国平均 6.6 を 0.9 ポイント下回り、「自分自身は幸せだが、地域の暮らしには満足しきれていない」という構造が表れている。

転出・転居を検討する理由の上位は「道路事情や交通の便が悪い」53.5%、「日常の買い物が不便」47.8%であり、主観偏差値でも移動・交通 30.0、買物・飲食 20.8、医療・福祉 27.0 と低水準にある。自由記述でも、これら 3 分野の困りごとが多く挙げられ、免許返納後や加齢・健康状態の変化に伴う不安が併せて語られている。

利便性関連因子	主観 偏差値	客観 偏差値	主観－ 客観	転出理由 としての順位
移動・交通	30.0	45.1	▲15.1	**1 位（53.5%）**
買物・飲食	20.8	44.2	▲23.4	**2 位（47.8%）**
医療・福祉	27.0	48.1	▲21.1	**5 位（29.2%）**

なお、生活満足度と相関の高い地域行政（0.47）は、相関 0.4 以上の因子が 18 と最も多く、複数因子をつなぐハブ的な位置にある。行政サービスのあり方への働きかけは、広い範囲へ波及し得る。

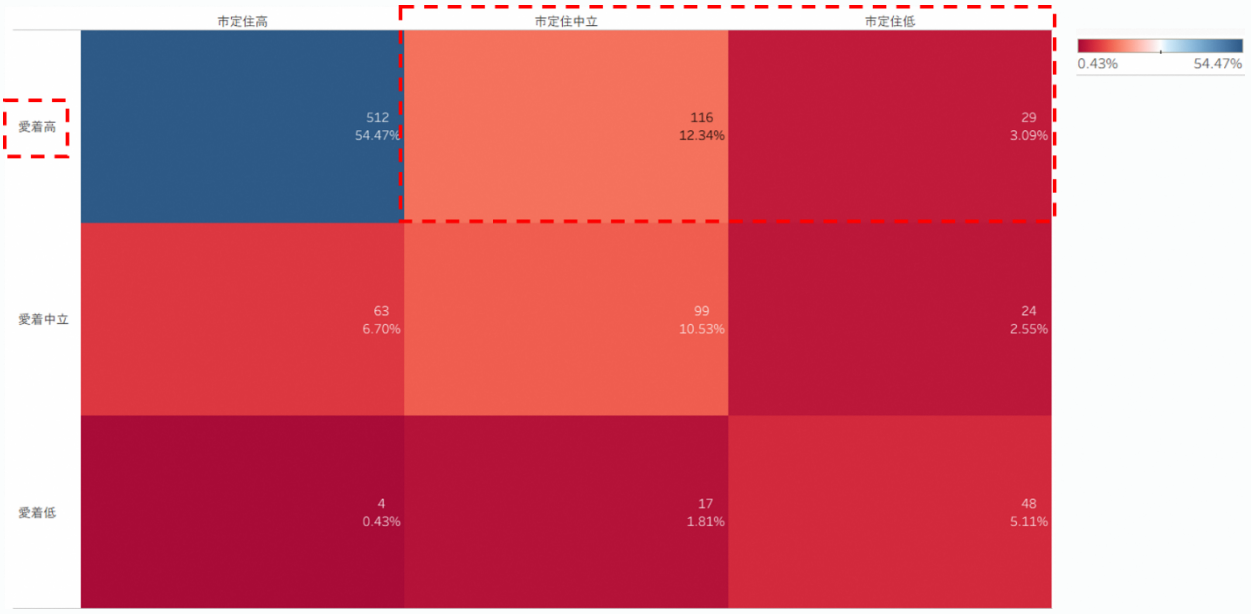
▶ 詳細は報告書「11.3.1 論点②（1/3）（P.127）／6.3 F2-a 移りたい／移ってもよい理由（P.55）／9.6 全体的な特徴の把握（P.108）／7.1.2 年齢×転出・転居検討理由（P.68）」参照

15.2　愛着があっても転出意向が生じる構造

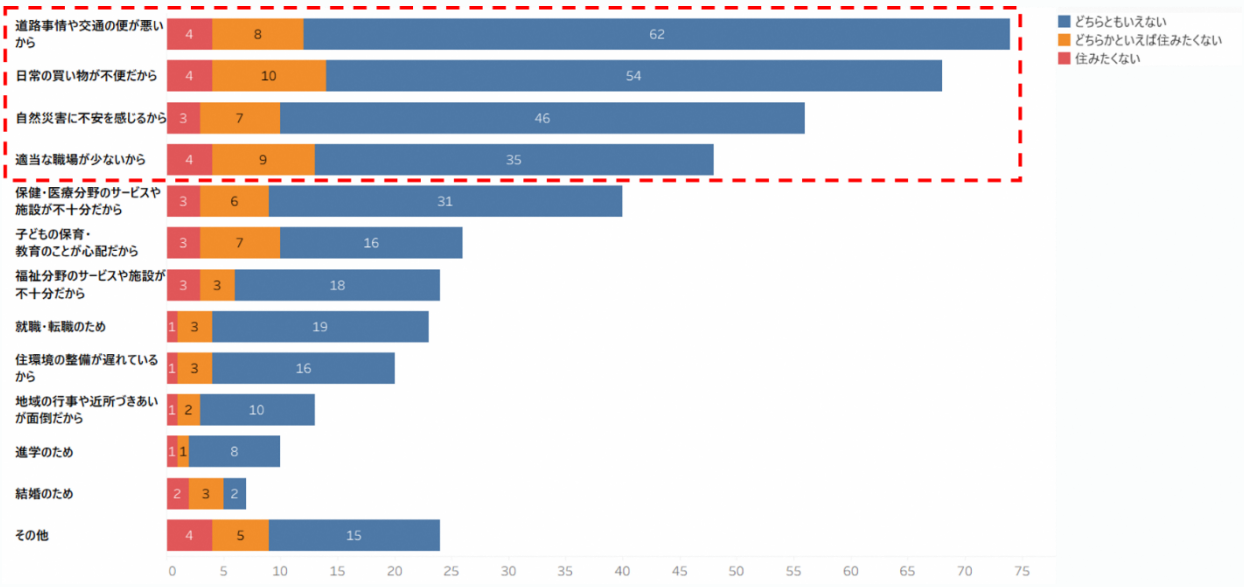
宇和島市への愛着は 70.6%が肯定している一方、定住意向の肯定は 62.1%にとどまる。愛着と定住意向の関係を詳しく見ると、愛着が高い層ほど定住意向も高い傾向がある一方で、愛着が高いにもかかわらず定住意向が中立・低い層が一定数存在する。

この層が挙げる転出・転居の理由は、全体の傾向と概ね共通しており、交通・買い物・自然災害・雇用に関する事項が上位を占めている。すなわち、愛着の高さにかかわらず、日常生活に関わる要因が転出・転居意向に影響していることがうかがえる。

■愛着が高いにもかかわらず定住意向が中立・低い層が一定数存在



■愛着の高さにかかわらず、日常生活に関わる要因が転出・転居意向に影響



▶ 詳細は報告書「11.3.1 論点②（1/3－参考 1）（P.128）／同（1/3－参考 2）（P.129）／前提 5 宇和島市への愛着×定住意向（P.66）」参照

この結果が示すこと

定住の理由は「生まれ育った地域だから」58.3%、「家族・親族が近くにいるから」52.0%という出自と家族に集中する一方、転出・転居の検討理由は生活の利便性に集中している。利便性は、定住を支える要因としてよりも、転出側の要因としてより強く表れている。

したがって、「愛着の醸成」に取り組むだけでは、定住の確保には十分でない可能性がある。愛着を高める取組と、日常の利便性を改善する取組は、いずれか一方ではなく両輪で進める必要がある。

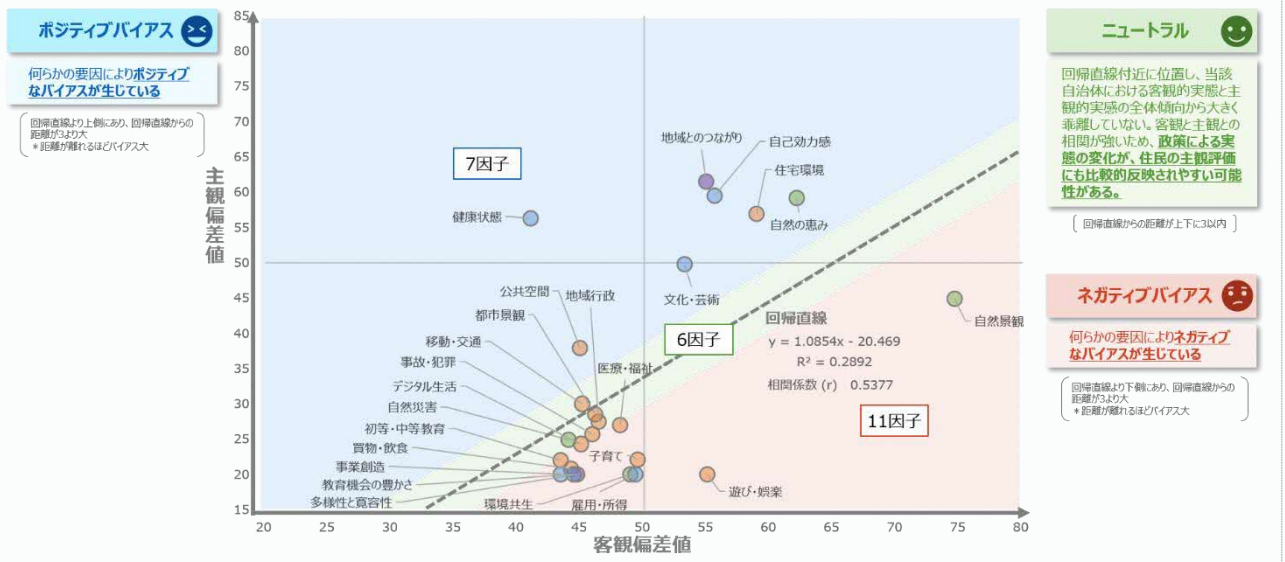
15.3　実態と実感の乖離

24 因子のうち 21 因子で主観偏差値が客観偏差値を下回り、平均差は▲16.2 に達する。客観的な地域資源やサービス水準が住民の実感に結び付いておらず、実態の改善に加えて、既にある強みや取組を住民に伝える営みが重要となる。

特に、遊び・娯楽（客観 55.0）、自然景観（客観 74.6）、文化・芸術は、客観的な水準は高いにもかかわらず正しく認知されておらず、周知次第で主観の向上が見込める領域である。自由記述でも、歴史・文化・観光資源や公共施設、人材について「もっと活かせる」との言及が多く、「PR・情報発信」への指摘も見られる。市民自身も、客観との乖離を一定実感している様子がうかがえる。

一方、移動・交通や地域行政などは、主観バイアス分析において回帰直線の付近に位置するニュートラルな領域であり、政策による実態の変化が住民の主観評価に比較的反映されやすい。実態改善に取り組む優先度が高いといえる。他方、医療・福祉と買物・飲食は客観偏差値が中位でありながら主観偏差値が大きく下回るネガティブバイアス因子であり、実態改善と並行して「実感への転換」が不可欠となる。

■主観バイアス分析



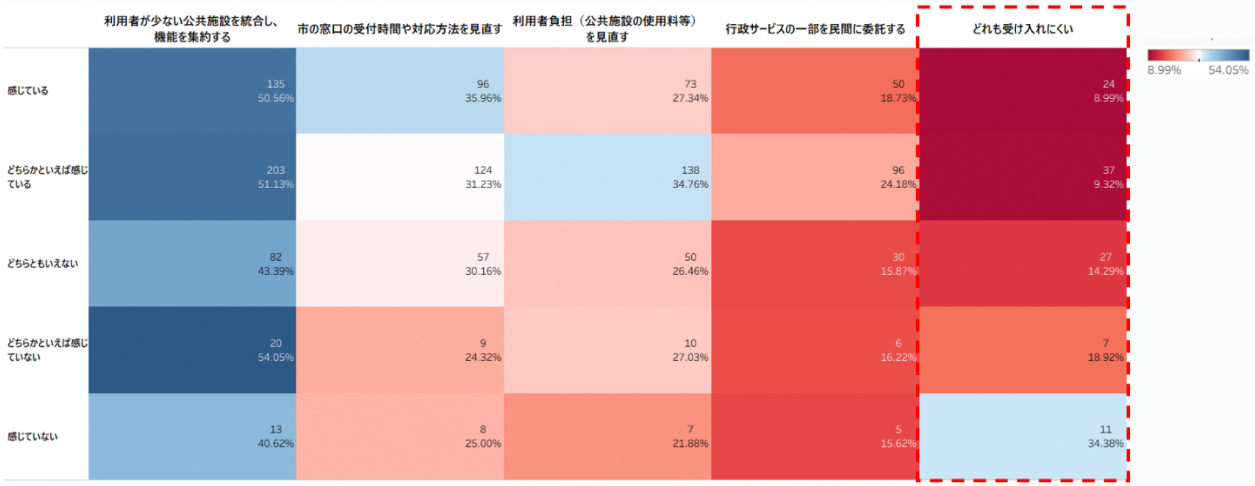
▶ 詳細は報告書「11.3.2 論点②（2/3）（P.131）／9.14 主観バイアス分析（P.116）／9.13 客観×主観の象限別分析（P.115）」参照

15.4　市民とともに取り組む

行政サービスの見直しについては、「利用者が少ない公共施設を統合し、機能を集約する」が 48.9%と最も受け入れられやすく、「どれも受け入れにくい」は 11.4%にとどまる。回答者の約半数が 60 代以上という構成でありながら、大多数が何らかの見直しを受け入れる意向を示している。

なお、宇和島市への愛着の程度別に見ると、愛着が低い層ほど「どれも受け入れにくい」と回答する割合が高く、愛着と行政サービス見直しの受け入れには一定の関連が見られる。行政サービスの見直しには市民の愛着の醸成が前提条件となり、市民を不在にせず、市民とともに考え・取り組むことが肝要と考えられる。

■愛着×受け入れやすい行政サービスの見直し



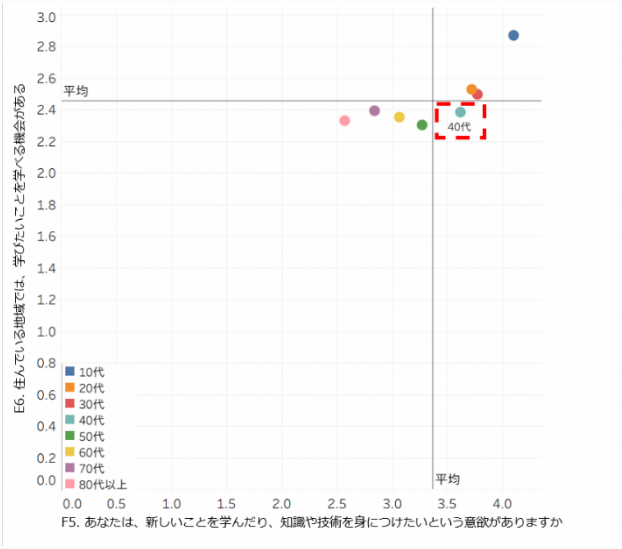
▶ 詳細は報告書「11.3.1 論点②（1/3－参考 3）（P.130）／6.8 F6 受け入れやすい行政サービスの見直し（P.60）」参照

また、市への愛着は 70.6%が感じている一方、まちづくりへの関与・貢献意欲は肯定側が 27.6%にとどまり、愛着が参画に結び付いていない。他方、新しい学びや知識・技術への意欲は 41.2%が高く、男性 20 代のように市の伸びしろに相当する領域をポジティブに捉えている層も存在する。

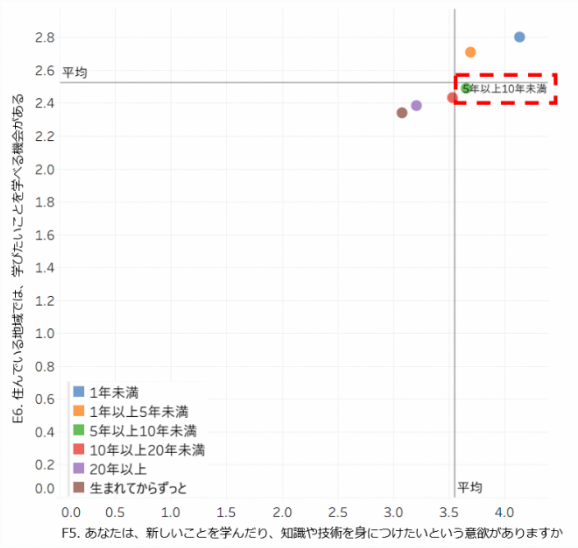
なお、学習意欲（F5）と教育機会（E6）を組み合わせると、「意欲はあるが機会がない」層が存在する。この層は、40 代、居住 5 年以上 10 年未満、親と子の 2 世代世帯、18 歳未満の子がいる層と重なる傾向がある。これらは、14.3 で示したつながりの実感が弱い層とも重なっており、学びの機会づくりが、つながりと定住の双方への接点となり得る。

■学習意欲×教育機会（年代・居住年数別）

《年代…40代》

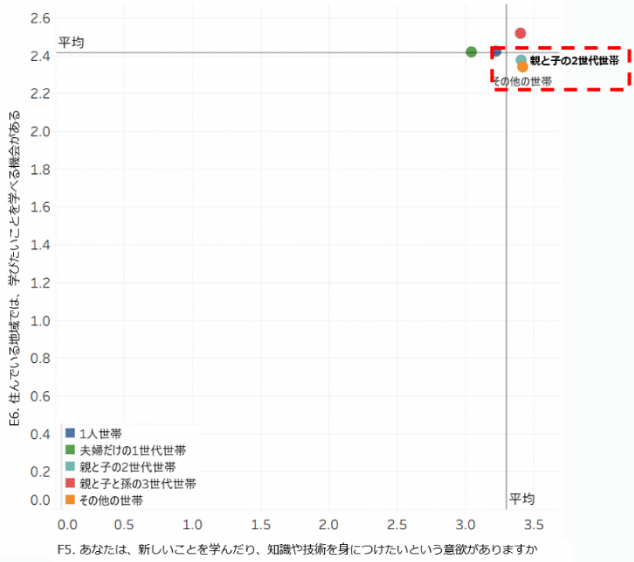


《居住年数…5年以上10年未満》

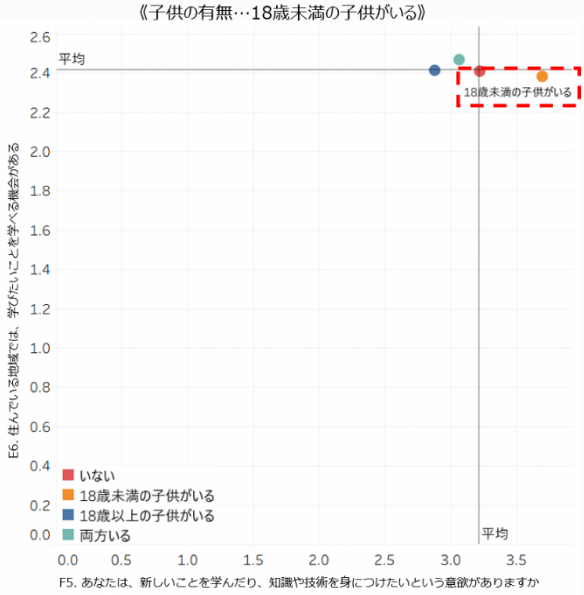


■学習意欲×教育機会（世帯構成・子供の有無別）

《世帯構成…親と子の2世代世帯》



《子供の有無…18歳未満の子供がいる》



▶ 詳細は報告書「11.3.3 論点②（3/3－参考 1）（P.133）／同（3/3－参考 2）（P.134）／6.7 F5 学びや知識・技術への意欲（P.59）／3.1 男性 20 代のまちへの高い期待（P.33）」参照

15.5　取組の方向性

方向性	内容
日常の不便に対応する	交通・買い物・医療は転出意向に直結する不便として認識されている。とりわけ移動・交通は、政策による実態の変化が住民の実感に反映されやすいニュートラルな領域であり、実態改善に取り組む優先度が高い。
実感へ転換する	遊び・娯楽（客観 55.0）、自然景観（客観 74.6）は客観的に高い水準にありながら主観が大きく下回る。新たな整備ではなく、既にある資源の見せ方・届け方を見直すことが、費用を抑えつつ実感を高める打ち手となる領域も存在している。
市民とともに取り組む	市民との協働は、市民に呼びかけ・引き込む（＝伝える）取組でもあることから、実感の向上と担い手の広がりの双方につながり得る。学ぶ意欲はあるが機会がないと感じている層は、その接点となり得る。

■日常の不便に対応／実感へ転換／市民とともに取り組む

日常の不便に対応する	実感へ転換する	市民とともに取り組む
• 転出・転居の検討理由の上位は交通の便（53.5%）、日常の買い物（47.8%）、保健・医療（29.2%）であり、客観偏差値では中位でも、住民の転出意向に直結する不便と認識されている（スライド6.3）。 • とりわけ移動・交通は、政策による実態の変化が住民の実感に反映されやすいニュートラルな領域であり、実態改善に取り組む優先度が高い（スライド9.14）。 • 一方、医療・福祉と買物・飲食は客観偏差値が中位でありながら主観偏差値が大きく下回るネガティブバイアス因子であり、実態改善と並行して「実感への転換」が不可欠となる（スライド9.13／9.14）。	• 遊び・娯楽（客観55.0）、自然景観（客観74.6）は客観的に高い水準にありながら主観が大きく下回る。既にある資源が十分に魅力として伝えきれていない可能性がある（スライド9.6）。 • 自由記述G5でも、歴史・文化・観光資源や公共施設、人材が「もったいない」と語られ、「PR・情報発信」への指摘が見られる（スライド8.5）。 • 新たな整備ではなく、既にある資源の見せ方・届け方を見直すことが、費用を抑えつつ実感を高める打ち手となる領域も存在している。	• 市への愛着は70.6%が感じている一方で、まちづくりへの関与・貢献意欲は「そう思う」側が27.6%にとどまり、愛着が参画に結び付いていない（スライド6.5／6.6）。 • 新しい学びや知識・技術への意欲は41.2%が高く、男性20代のように市の伸びしろに相当する領域をポジティブに捉えている層も存在する（スライド6.7／3.1）。 • 市民との協働は市民に呼びかけ・引き込む（＝伝える）取組でもあることから、実感の向上と担い手の広がりの双方につながり得る。

▶ 詳細は報告書「11.3.3 論点②（3/3）（P.132）」参照

結果を見る際のポイント

実態の改善と実感への転換は、いずれか一方では生活満足度の向上に結び付きにくい。限られた資源の中で両者を組み合わせ、市民とともに進めることが求められる。

論点①で示した「地域とのつながり」の強化と、論点②の「実態の改善・実感への転換」は、公共空間や地域行政といった因子を通じて相互に結び付いている。分野を横断して組み合わせることで、相乗効果が期待できる。

16. 調査結果のまとめ

これまで確認してきた第 1 部から第 3 部までの結果、及び第 4 部で整理した論点①・②を踏まえ、総合計画の検討に向けた総括を行う。

16.1　市民の評価の全体像

宇和島市への愛着は 70.6%、定住意向は 62.1%が肯定しており、宇和島市での暮らしに対する評価は概ね肯定的である。一方、まちづくりへの関与・貢献意欲の肯定は 27.6%にとどまり、愛着から定住、参画へと段階が進むにつれて割合が低下する構造が見られる。

また、幸福度 6.7 点は全国平均 6.4 点を上回る一方、生活満足度 5.7 点は全国平均 6.6 点を下回っている。「自分自身は幸せだが、地域の暮らしには満足しきれていない」という市民の意識が表れている。

16.2　Well-Being から見た強みと課題

区分	主な因子
強み（主観高・客観高）	地域とのつながり、自然の恵み、自己効力感、住宅環境
要注意（主観高・客観低）	健康状態
周知不足（主観低・客観高）	遊び・娯楽、自然景観、文化・芸術
課題（主観低・客観低）	公共空間、医療・福祉、移動・交通、買物・飲食、子育て、地域行政　ほか 10 因子

16.3　属性・地域による違い

年代や地区によって、評価やニーズには違いが見られる。地域とのつながりの実感は宇和島地区・女性 20～40 代・男性 30 代・子育て世帯で弱く、これらは定住意向が低い層とも重なる。また、地区別では、三間地区がつながりと自然環境を強みとする一方で生活利便性に課題を抱え、宇和島地区は正反対の構造を持つ。津島地区は突出した強みが他の弱さを補う構図になっていない。

16.4　計画検討に向けた 2 つの論点

論点	内容
論点①	「地域とのつながり」という強みを維持しつつ、生活満足度と最も強く結び付く「公共空間」の実態を底上げし、つながりの実感が弱い層（市街地・子育て世帯・転入後間もない層）へ広げる。
論点②	移動・買い物・医療という日常の不便について実態の改善を図るとともに、客観的には高い水準にありながら実感に届いていない資源の伝え方を見直し、市民とともに取り組む。

▶ 詳細は報告書「まとめと今後に向けて（P.136）」参照

おわりに

宇和島市は、地域とのつながりや自然の恵みという強みと、日常の利便性に関する構造的な課題を併せ持っている。

本報告書で示した 2 つの論点は、いずれも単一の因子ではなく複数因子の相関構造を踏まえ、政策の縦割りを越えて分野横断的に取り組むことの重要性を示している。なお、両論点は相関関係から効果が期待されるものであり、因果関係を直接示すものではない点に留意されたい。

Well-Being の向上は、一度の調査や単発の施策で達成されるものではない。本調査は Well-Being 指標を用いた調査であり、同一の指標で継続的に調査を実施することで、経年変化の把握が可能となる。変化を捉えながら施策の効果を検証し、市民とともに課題や強みへの理解を深める対話の機会を重ねることが、実感の向上と担い手の広がりの双方につながると考えられる。

17. 本会議でご協議いただきたい事項

	ご協議いただきたい事項
協議①	論点①・②の 2 つの論点設定について 本調査から導いた 2 つの論点を、長期ビジョン・中期戦略の検討における出発点として位置づけてよいか。過不足がないか、庁内の実務感覚と照らしてご意見をいただきたい。
協議②	「公共空間」の位置づけについて 生活満足度との相関が 24 因子中最も高い一方、実態・実感の双方に課題がある。人が集い交流できる場としての公共空間の再定義を、分野横断の重点テーマとして扱うことについてご意見をいただきたい。
協議③	「伝える」取組の位置づけについて 24 因子中 21 因子で実態が実感に届いていない。施策の実施と並行して、既にある資源や取組を市民に伝える営みを、計画上どのように位置づけるかについてご意見をいただきたい。

※本資料は市民アンケート調査に基づく報告であり、人口ビジョンに関する協議事項は別途資料にて説明する。